

和歌山県の農林水産業



令和6年9月 和歌山県農林水産部

目次

利用にあたって	1
I 和歌山県の農林水産業の特徴	4
1 和歌山県農林水産業の主要指標	4
2 和歌山県の農業の特徴	
1) 農業産出額の構成及び生産農業所得	5
2) 本県基幹農作物の全国シェア	6
3 和歌山県の林業の特徴	
1) 森林資源	7
2) 民有林(5条森林)の森林資源の概況	7
3) 林家の構成	7
4) 素材生産量	8
5) 特用林産物生産量	8
4 和歌山県の水産業の特徴	
1) 漁業種類別漁獲量	9
2) 魚種別漁獲量	9
II 和歌山県の農林水産業の動向	10
1 農業部門	
1) 農業指標	10
2) 農業を担う人々	11
3) 耕地面積	13
4) 農業生産	15
5) 農業所得と農業産出額	29
6) 農業農村整備事業の基盤整備状況	33
2 林業部門	
1) 林業を担う経営体(林業経営体)	34
2) 森林資源・林業生産基盤	35
3) 林業生産	38
4) 林業産出額	42
3 水産部門	
1) 水産業を担う人々	43
2) 水産業の基盤	44
3) 水産業の生産	45
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移	46

利用にあたって

- I) 本資料は、公表されている最新の数値を基本に、和歌山県の農林水産業の概要を示したものです。
- II) 公表されている数値の最新年次が全国と和歌山県で異なるなどのため、掲載している「本県農林水産業の全国における位置」等、公表数値と本編の数値が一致しないものもあります。
- III) 数値等の出典は図の下に () 書きで示しています。

ただし、「本県農林水産業の全国における位置」は農林水産省統計表に基づいています。また、単位未満の数値は四捨五入、あるいは下記のとおり四捨五入を行っている調査もあるため、内容の計は必ずしも合計と一致しません。

桁数		7桁以上	6～5桁	4～3桁	2桁以下
四捨五入の方法		100の位を 四捨五入	10の位を 四捨五入	1の位を 四捨五入	四捨五入 しない
例	四捨五入前	1,234,567	123,456	1,234	12
	四捨五入後	1,235,000	123,500	1,230	12

- IV) 本資料で使われている主な統計用語は、次のとおりです。

(1) 農家とは……………経営耕地面積が10 a 以上であるか又は過去1年間の農産物販売金額が15万円以上あるかのどちらかの要件を満たしている世帯。

(2) 農業経営体とは…農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者。

(1)経営耕地面積が30 a 以上の規模の農業

(2)農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業の規模が次の農業経営体の基準以上の農業

①露地野菜作付面積 15 a

②施設野菜栽培面積 350m²

③果樹栽培面積 10 a

④露地花き栽培面積 10 a

⑤施設花き栽培面積 250m²

⑥搾乳牛飼養頭数 1頭

利用にあたって

- ⑦肥育牛飼養頭数 1頭
- ⑧豚飼養頭数 15頭
- ⑨採卵鶏飼養羽数 150羽
- ⑩ブロイラー年間出荷羽数 1,000羽
- ⑪その他 調査期日1年間における農業生産物の総販売額50万円に相当する事業の規模

(3)農作業の受託の事業

(3) 個人経営体とは…個人（世帯）で事業を行う経営体。なお、法人化して事業を行う経営体は含まない。

(ア) 主業経営体とは

農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体。

(イ) 準主業経営体とは

農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体。

(ウ) 副業的経営体とは

調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体。

(エ) 基幹的農業従事者とは

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

(4) 団体経営体とは…個人経営体以外の経営体。

(5) 単一経営経営体とは…農産物販売金額のうち、首位部門の販売金額が8割以上の経営体。

(6) 複合経営経営体とは…単一経営以外をいい、農産物販売金額のうち、首位部門の販売金額が8割未満(販売のなかった経営体を除く)の経営体。

(7) 経営耕地とは…調査期日現在で農業経営体が経営している耕地(けい畔を含む田、樹園地及び畑)をいい、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計。土地台帳の地目や面積に関係なく、実際の地目別の面積。

利用にあたって

- (8) 生産農業所得=農業総産出額×所得率+農業生産に関わる経常補助金
- (9) 農業産出額とは……農業生産活動による最終生産物の総生産額であり、農産物別生産数量に農産物別農家庭先価格を乗じて算出したもの。都道府県を推計単位としている。
- (10) 林業経営体とは……次のいずれかに該当する事業を行う者。
- ①権原に基づいて育林又は伐採(立木竹のみを譲り受けてする伐採を除く。)を行うことができる山林の面積が3ha以上の規模の林業
 - ②委託を受けて行う育林若しくは素材生産または立木を購入して行う素材生産の事業
- (11) 林業就業者とは……15歳以上で特定の1週間の間に林業に従事した者
- (12) 上記のうち主として林業に就業している者とは
……主に勤務や自営により林業の仕事をしていた場合。
- (13) 漁業経営体とは……過去1年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯または事業所をいう。
ただし、過去1年間における漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。
個人経営体 個人で漁業を自営する経営体。
- (14) 漁業就業者とは……満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者。
- (15) 漁業産出額とは……漁業生産活動による最終生産物の総生産額であり、漁業・養殖業の魚種別生産量に魚種別産地市場価格等を乗じて算出したもの。

I 和歌山県の農林水産業の特徴

1 和歌山県農林水産業の主要指標

	農 業			林 業			水 産 業		
担 う 人 々	令2.2.1 戸 農家	25,263		令2 戸 林家	9,346				
	令2.2.1 経営体 農業経営体	18,141		令2 経営体 林業経営体	340		平30 経営体 漁業経営体	1,581	
	令2.2.1 経営体 % 個人経営体	17,976	100.0				うち 平30 経営体 個人経営体	1,535	
	うち 令2.2.1 経営体 % 主業経営体	5,732	31.9						
	うち 令2.2.1 経営体 % 準主業経営体	2,104	11.7						
	うち 令2.2.1 経営体 % 副業的経営体	10,140	56.4						
	令2.2.1 人 基幹的農業従事者 (個人経営体)	27,202		令2 人 林業就業者	1,002		平30 人 漁業就業者	2,402	
	令2.2.1 経営体 団体経営体	165		令2 人 うち主として林業に 就業していたもの	621		平30 人 うち自営漁業就業者	1,594	
基 盤	令5 ha % 耕地	31,000	100.0	令5.4.1 ha 森林面積	361,082		令5 隻 % 漁船	3,742	100.0
	令5 ha % 水田	8,970	28.9	令5.4.1 ha % 民有林	343,981	95.3%	令5 隻 % ジーゼル	2,436	65.1
	令5 ha % 樹園地	19,700	63.5	令5.4.1 ha % 人工林	208,144	57.6%			
	令5 ha % 普通畑	2,210	7.1	令5.4.1 ha % 天然林	129,205	35.8%			
	令4 % 耕地利用率	88.8		令5.4.1 m ³ 人工林ha当蓄積	499				
産 出 額	令4 億円 % 農業産出額	1,108	100.0	令3 百万円 % 林業産出額	4,670	100.0	令4 百万円 % 漁業産出額	14,786	100.0
	令4 億円 % 米	69	6.2	令3 百万円 % 木材	2,310	49.5	令4 百万円 % 魚類	5,823	39.4
	令4 億円 % 果実	752	67.9	令3 百万円 % 木炭	820	17.5	令4 百万円 % 水産動物類	1,118	7.6
	うち 令4 億円 % みかん	292	26.4	令3 百万円 % その他特用林産物	1,540	33.0	令4 百万円 % 海産ほ乳類	31	0.2
	うち 令4 億円 % うめ	190	17.1				令4 百万円 % 貝類	123	0.8
	令4 億円 % 野菜	132	11.9				令4 百万円 % 海藻類	105	0.7
	令4 億円 % 花き	64	5.8				※ 令4 百万円 % 海面養殖業	7,586	51.3
	令4 億円 % 畜産	38	3.4						
所得	令4 億円 生産農業所得	399							

〔利用上の注意〕

農家調査は販売農家を抽出単位とし、センサスで確定された経営組織区分と県内農業地域に基づき部分母集団を設定した上で、部分母集団別に系統抽出された農家を対象とする標本調査であるため、その調査結果は推計による県計値となる。

(農林業の令和2年2月1日現在の数値は、2020年農林業センサスより)

(水産業を担う人々の数値は2018年漁業センサス、漁船の数値は「県漁船統計表より」)

※海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の産出額が計上されないこととなり、平成19年以降の数値は種苗の算出額が含まれないものに修正されたため、平成18年以前と平成19年以降では連続しない。

2 和歌山県の農業の特徴

1) 農業産出額の構成及び生産農業所得

和歌山県の農業産出額の構成は全国・近畿とは大きく異なり、果実の構成比が**67.9%**と半分以上を占め果樹農業に特化している。

全 国 畜産 > 野菜 > 米 > 果実 > 花き

近 畿 野菜 > 米 > 畜産 > 果実 > 花き

和歌山 果実 > 野菜 > 米 > 花き > 畜産

単位：億円、%

令和4年	和歌山県		近畿		全国		全国シェア	順位
	金額①	構成比	金額	構成比	金額②	構成比	(①/②)	
農業産出額	1,108	100.0	4,689	100.0	90,147	100.0	1.2	30
米	69	6.2	1,082	23.1	14,015	15.5	0.5	42
野菜	132	11.9	1,197	25.5	22,298	24.7	0.6	39
果実	752	67.9	967	20.6	9,232	10.2	8.1	5
花き	64	5.8	175	3.7	3,493	3.9	1.8	18
畜産	38	3.4	1,004	21.4	34,673	38.5	0.1	45
その他	53	4.8	264	5.6	6,436	7.1	0.8	
生産農業所得	399		1,531		31,826		1.3	29
農業産出額に占める 生産農業所得の割合	36.0		32.7		35.3			

(令和4年生産農業所得統計)

2) 本県基幹農作物の全国シェア（全国5位以内）

果樹王国「わかやま」

令和4年産出額全国順位

みかん 1位（全国シェア 18.8%）

うめ 1位（全国シェア 65.5%）

かき 1位（全国シェア 21.5%）

もも 4位（全国シェア 8.6%）

令和4年 農作物名	産出額		全国シェア (%)	1位	2位	3位	4位	5位
	和歌山県 (億円)	全国 (億円)						
みかん	292	1,557	18.8	和歌山	静岡	愛媛	熊本	佐賀
うめ	190	290	65.5	和歌山	群馬	神奈川	山梨	三重
かき	92	427	21.5	和歌山	奈良	福岡	岐阜	新潟
はっさく	26	37	70.3	和歌山	広島	愛媛	徳島	香川
スターチス	23	58	39.7	和歌山	北海道	長野	千葉	鹿児島
いちじく	14	69	20.3	和歌山	愛知	福岡	大阪	兵庫
セミノール	3	6	50.0	和歌山	大分	三重	愛媛	静岡
さやえんどう	22	223	9.9	鹿児島	和歌山	愛知	福島	熊本
清見	12	33	36.4	愛媛	和歌山	佐賀	広島	大分
キウイフルーツ	14	101	13.9	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	香川
不知火	14	177	7.9	熊本	愛媛	和歌山	佐賀	鹿児島
宿根かすみそう	7	44	15.9	熊本	福島	和歌山	北海道	高知
ガーベラ	4	47	8.5	静岡	福岡	和歌山	長崎	愛知
ネーブルオレンジ	1	10	10.0	広島	静岡	和歌山	愛媛	熊本
いよかん	1	38	2.6	愛媛	佐賀	和歌山	静岡	山口
もも	59	684	8.6	山梨	福島	長野	和歌山	岡山
すもも	9	103	8.7	山梨	長野	山形	和歌山	福島
ぼんかん	3	38	7.9	愛媛	鹿児島	高知	和歌山	熊本
なつみかん	3	43	7.0	鹿児島	熊本	愛媛	和歌山	三重
ししとう	2	57	3.5	高知	千葉	愛知	山形	和歌山

（令和4年生産農業所得統計）

※本編での「えんどう」とは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダを合算したもの

3 和歌山県の林業の特徴

森林資源の概況

令和4年現在の和歌山県の森林面積は361,538ha、森林率は77%で全国第8位。その内、民有林面積は344,026haで95%を占める。なお、民有林は、個人有林や会社有林などの私有林と、県有林や市町村有林などの公有林で構成される。

林家

令和2年現在の林家数は9,346戸であるが、保有林5ha以下の林家が全体の70.1%を占める。保有山林規模100ha以上の林家では、林家数の1.2%を占めるにすぎないが、保有面積で42.8%を占めている。

1) 森林資源 ～民有林を主とした森林資源の維持造成～

単位：％、千ha

	全国	和歌山		全国順位（上位5都道府県）				
		順位	1位	2位	3位	4位	5位	
森林率	67.1	76.5	8	高知	岐阜	長野	島根	山梨
国有林面積	7,657	17	35	北海道	福島	青森	秋田	岩手
民有林面積	17,368	344	21	北海道	岩手	長野	岐阜	福島

（林野庁計画課「森林資源の現況」令和4年3月31日現在）

2) 民有林(5条森林)の森林資源の状況 ～人工林（ひのき）の蓄積は全国屈指の資源量～

単位：千ha、千m³

	全国	和歌山		全国順位（上位5都道府県）				
		順位	1位	2位	3位	4位	5位	
人工林面積	7,846	208	13	北海道	長野	岩手	岐阜	高知
人工林蓄積	2,991,761	102,546	9	北海道	高知	岩手	宮崎	大分
うち すぎ	1,823,896	49,284	15	宮崎	秋田	福島	大分	高知
うち ひのき	697,344	51,730	3	高知	岐阜	和歌山	愛媛	静岡

（林野庁計画課「森林資源の現況」令和4年3月31日現在）

【参考】北海道の人工林は、からまつ、とどまつ、えぞまつを中心とした資源構成。

※5条森林とは、森林法第5条第一項に基づく地域森林計画の対象となっている森林をいう。

3) 林家の構成 ～小規模林家による森林所有と大規模森林所有による林業経営～

保有林面積規模別林家数と面積（和歌山県）

単位：戸、ha、％

	累計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林家数	9,346	6,551	1,310	772	472	131	110
構成比	100	70.1	14.0	8.3	5.0	1.4	1.2
面積	94,099	14,070	8,503	9,770	13,158	8,318	40,280
構成比	100	15.0	9.0	10.4	14.0	8.8	42.8

（注記）※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

（2020年農林業センサス）

保有林面積規模別林家数と面積（全国）

単位：戸、ha、％

	累計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林家数	690,047	511,744	92,982	50,083	26,398	5,683	3,157
構成比	100	74.2	13.4	7.3	3.8	0.8	0.5
面積	4,590,521	1,074,983	605,530	645,510	738,633	365,559	1,160,306
構成比	100	23.4	13.2	14.1	16.1	7.9	25.3

（注記）※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

（2020年農林業センサス）

4) 素材生産量

和歌山県では、素材生産量の増産を図るため、森林ゾーニングにより素材生産を行う「経済林」と森林保全を行う「環境林」とに区別し、施策の選択と集中を強化している。

単位：千m³

令和4年	全国	和歌山			全国順位（上位5都道府県）					
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	4位	5位		
素材	合計	22,082	264	25	1.2	北海道	宮崎	岩手	秋田	大分
材 生 産 量	針葉樹	20,386	257	24	1.3	北海道	宮崎	岩手	大分	秋田
	すぎ	13,238	149	23	1.1	宮崎	秋田	大分	青森	岩手
	ひのき	2,971	108	11	3.6	高知	岡山	愛媛	熊本	大分
	広葉樹	1,696	7	30	0.4	北海道	岩手	福島	広島	鹿児島

(木材需給報告書、県林業振興課業務資料)

5) 特用林産物生産量

和歌山県の特用林産物は、全国的に知名度の高い紀州備長炭をはじめとする多くの種類が生産されている。

単位：t

令和4年	全国	和歌山			全国順位（上位5都道府県）				
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	4位	5位	
白炭	2,810.0	915.7	2	32.6	高知	和歌山	宮崎	大分	愛知
黒炭	3,952.4	2.3	35	0.06	岩手	北海道	熊本	鹿児島	栃木
乾しいたけ	2,034.4	4.9	33	0.2	大分	宮崎	熊本	愛媛	岩手
生しいたけ	69,532.3	1,069.7	20	1.5	徳島	岩手	北海道	秋田	群馬

(特用林産基礎資料、県林業振興課業務資料)

4 和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア

南北に長いリアス式海岸線を擁する和歌山県では、各地で沿岸・沖合漁業を中心に多種多様な漁業が営まれている。

1) 漁業種類別漁獲量

令和4年	漁業種類別 漁獲量		全国 シェア (%)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
区分	和歌山県 (トン)	全国 (トン)											
沿岸かつお 一本釣	747	15,554	4.8	高知	三重	和歌山	宮崎	鹿児島	沖縄				
ひき縄釣	642	9,554	6.7	沖縄	高知	長崎	福岡	和歌山	宮崎	兵庫	鹿児島	三重	東京

2) 魚種別漁獲量

令和4年	漁業種類別 漁獲量		全国 シェア (%)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
区分	和歌山県 (トン)	全国 (トン)											
いせえび	112	1,115	10.0	千葉	三重	和歌山	静岡	徳島	宮崎	茨城	鹿児島	高知	長崎
たちうお	459	6,850	6.7	千葉	熊本	茨城	長崎	和歌山	鹿児島	宮城	神奈川	宮崎	愛媛
しらす	1,793	42,180	4.3	兵庫	愛知	静岡	大阪	茨城	愛媛	徳島	和歌山	広島	大分
むろあじ類	643	15,564	4.1	宮崎	長崎	鹿児島	高知	愛媛	大分	島根	三重	和歌山	兵庫
いさき	126	3,462	3.6	長崎	島根	福岡	山口	三重	千葉	愛媛	大分	和歌山	鹿児島
ちだい	49	1,788	2.7	長崎	福岡	宮城	石川	新潟	千葉	島根	鹿児島	山形	和歌山
海産ほ乳類	86	220	39.1	和歌山	岩手	長崎	富山	石川	北海道	高知	福井	宮崎	宮城
養殖まだい	2,349	68,088	3.4	愛媛	熊本	高知	三重	長崎	和歌山	宮崎	鹿児島	静岡	香川
養殖くろまぐろ	1,320	20,526	6.4	長崎	鹿児島	愛媛	高知	三重	和歌山	大分			
内水面 養殖あゆ	591	3,683	16.0	愛知	岐阜	和歌山	栃木	滋賀	徳島	宮崎	大分	静岡	熊本

注 しらすについては、福島・石川が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 海産ほ乳類については、大分・沖縄が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 養殖くろまぐろについては、京都・島根・山口・熊本・沖縄が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 養殖まだいについては、千葉・東京・福井・大阪・兵庫・山口・福岡が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 内水面養殖あゆについては、北海道・青森・岩手・宮城・福島・群馬・新潟・富山・長野・三重・京都・兵庫・奈良・島根・岡山・愛媛・高知・福岡・鹿児島が秘密保護のため順位に含まれていない。

Ⅱ 和歌山県の農林水産業の動向

1 農業部門

1) 農業指標

本県の農業経営体は18,141経営体で、うち個人経営体は17,976経営体である。個人経営体のうち主業経営体が31.9%、準主業経営体は11.7%、副業的経営体は56.4%で、65歳未満の世帯員がない副業的経営体の比率が高い。（2020年農業センサスより）

耕地面積は31,300haであり、その利用形態は田耕地29.3%、畑耕地70.9%である。

農業産出額は令和4年1,108億円

（構成比：米6.2%、果実67.9%、野菜11.9%、花き5.8%、畜産3.4%）

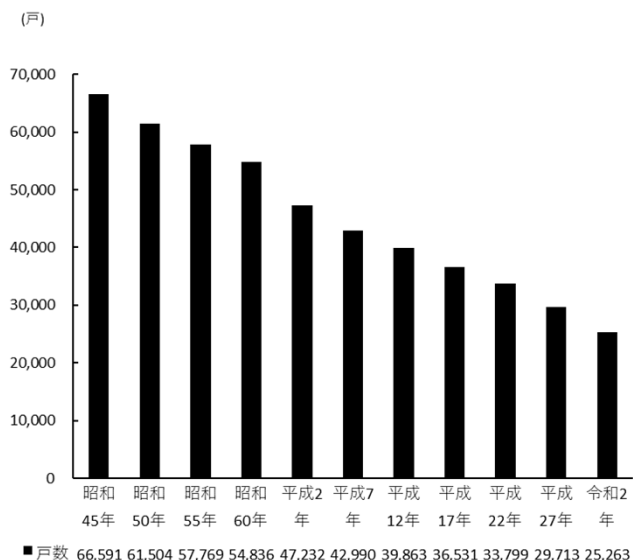
	令和2年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸 25,263		戸 5,200	戸 4,114	戸 3,304	戸 3,746	戸 4,556	戸 3,560	戸 783
農業経営体	経営体 18,141		経営体 3,330	経営体 2,997	経営体 2,238	経営体 3,232	経営体 3,608	経営体 2,404	経営体 332
個人経営体	17,976	% 100.0	3,309	2,975	2,216	3,200	3,580	2,374	322
主業経営体	5,732	31.9	749	853	497	1,332	1,373	875	53
準主業経営体	2,104	11.7	399	354	289	342	417	273	30
副業的経営体	10,140	56.4	2,161	1,768	1,430	1,526	1,790	1,226	239
団体経営体	165		21	22	22	32	28	30	10
	令和4年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha 31,300	% 100.0	ha 5,579	ha 4,988	ha 3,482	ha 5,325	ha 6,130	ha 4,972	ha 855
田耕地面積	9,160	29.3	2,371	1,737	875	484	1,913	1,201	576
田本地面積	8,700	27.8	2,297	1,660	818	448	1,831	1,118	525
畑耕地面積	22,200	70.9	3,212	3,251	2,611	4,838	4,215	3,766	279
	令和4年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	億円 1,108	% 100.0	千万円 1,466	千万円 1,997	千万円 1,184	千万円 2,274	千万円 2,270	千万円 1,552	千万円 168
米	69	6.2	218	138	61	31	141	85	21
果実	752	67.9	839	1,315	925	1,964	1,252	1,206	24
野菜	132	11.9	260	260	100	47	547	73	32
花き	64	5.8	-	-	-	-	-	-	-
畜産	38	3.4	65	58	65	71	25	31	63

※ ラウンドしているため、各数値の積み上げが、合計と一致しない場合があります。
花きの地域別産出額は、秘密保護による非公表の市町村が多いため掲載しておりません。
(2020年農林業センサス・農林水産統計年報)

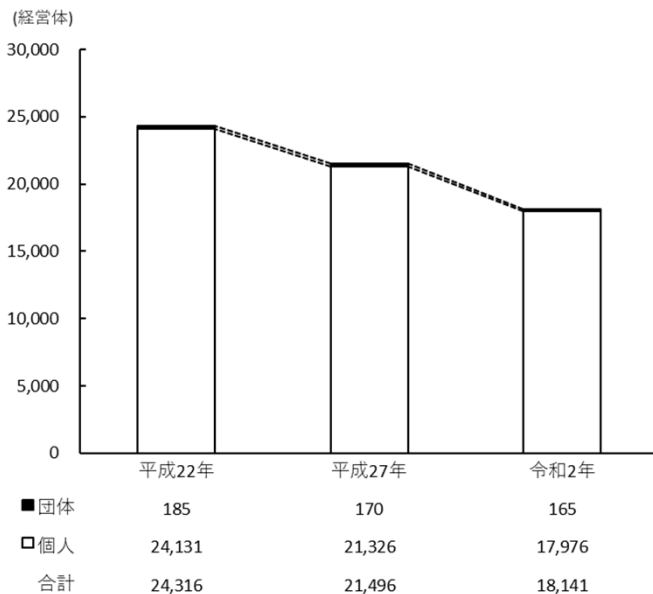
2) 農業を担う人々

令和2年の農家数は25,263戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農業経営体が61.1%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では65歳以上の占める割合が63.9%となっている。平成7年以降、新規就農数は増加傾向にある。

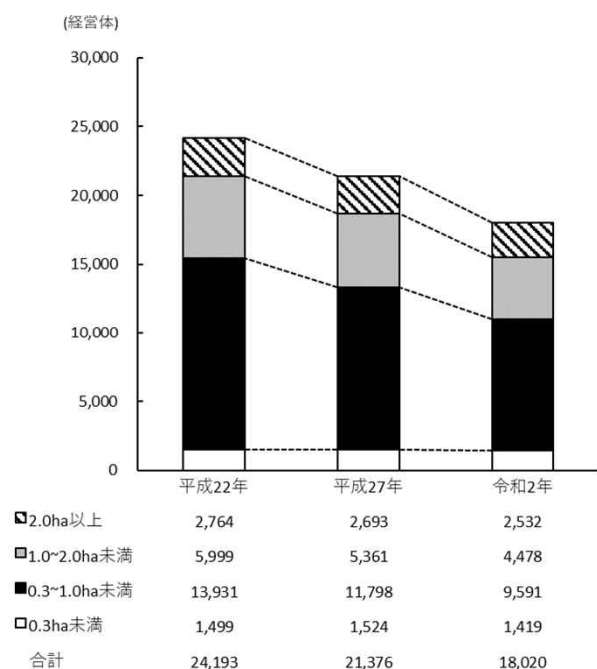
農家数の推移



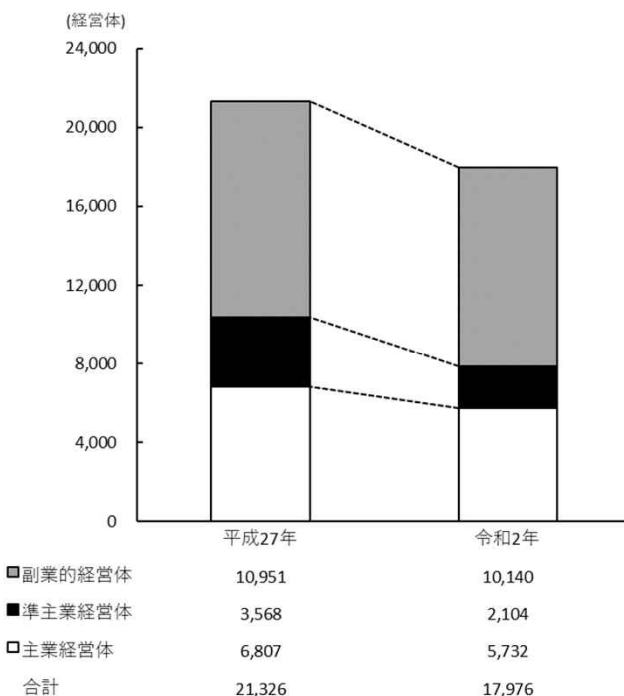
農業経営体数の推移



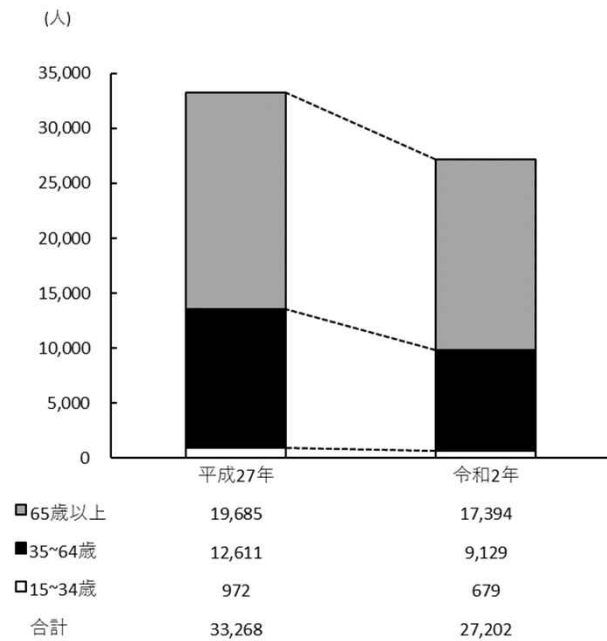
経営規模別経営体数 (経営耕地のある経営体)の推移



主副業別農業経営体数(個人経営体)の推移



年齢別基幹的農業従事者数
(個人経営体) の推移



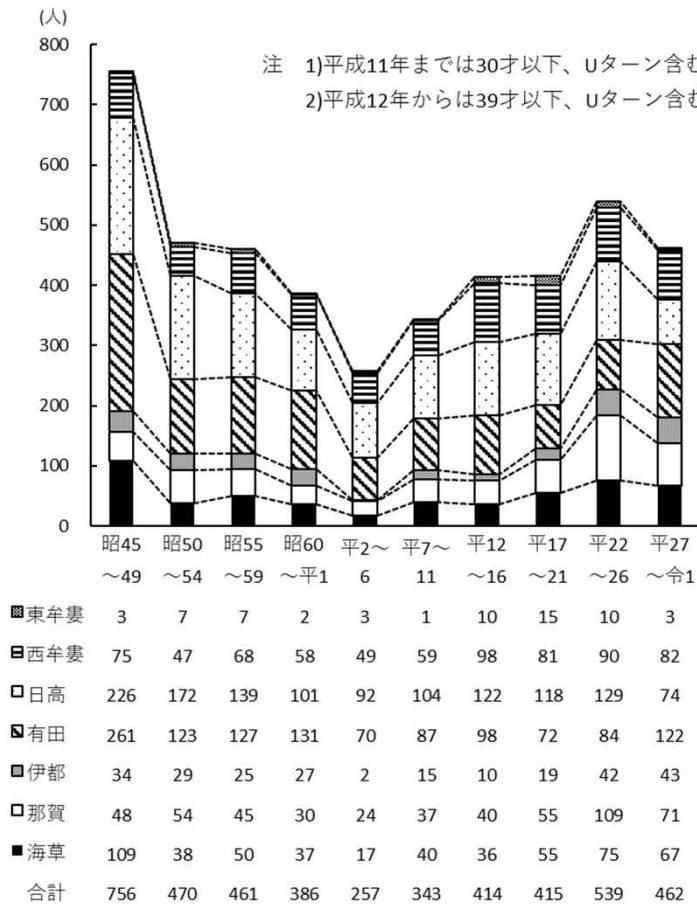
農家数

令和2年	全国	和歌山		
	実数	実数	順位	シェア(%)
総農家数	1,747,079	25,263	33	1.4
販売農家数	1,027,892	17,250	29	1.7

令和2年	1位	2位	3位
総農家数	長野	茨城	兵庫
販売農家数	茨城	新潟	福島

(2020年農林業センサス)

新規就農数推移



(経営支援課業務資料)

農業経営組織別経営体数 (令和2年)

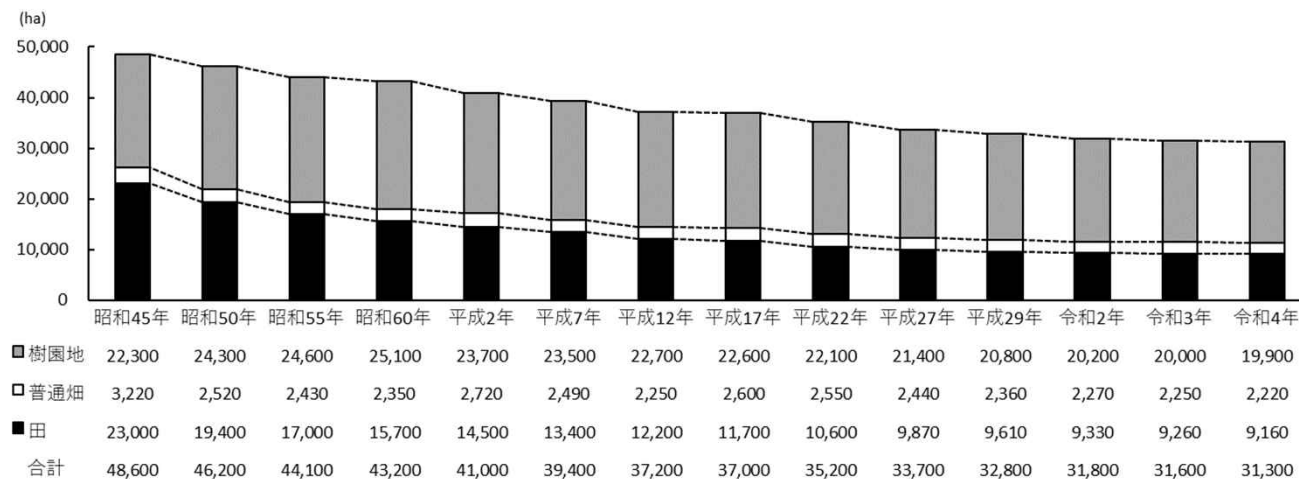
令和2年	経営体数	構成比 (%)
単一経営	14,530	84.6
稲作	2,622	15.3
野菜	907	5.3
果樹	10,355	60.3
花き・花木	401	2.3
畜産	65	0.4
その他	180	1.0
複合経営	2,653	15.4
合計	17,183	100.0

(2020年農林業センサス)

3) 耕地面積

耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
 施設面積は平成9年の909ha（耕地面積の2.3%）をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移



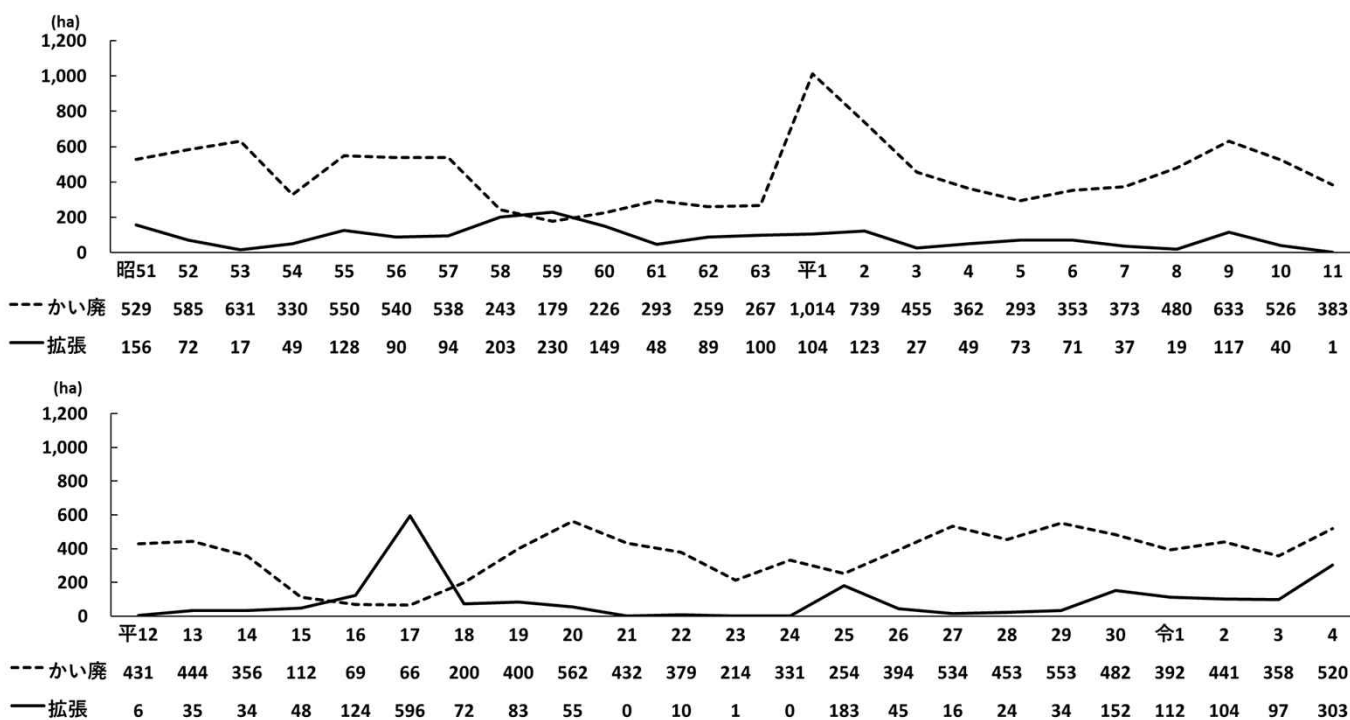
(農林水産統計年報)

耕地面積

令和4年	全国	和歌山		1位	2位	3位	
	耕地面積(ha)	耕地面積(ha)	順位				シェア(%)
田	2,352,000	9,160	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	1,973,000	22,200	21	1.1	北海道	鹿児島	青森
合計	4,325,000	31,300	38	0.7	北海道	新潟	茨城

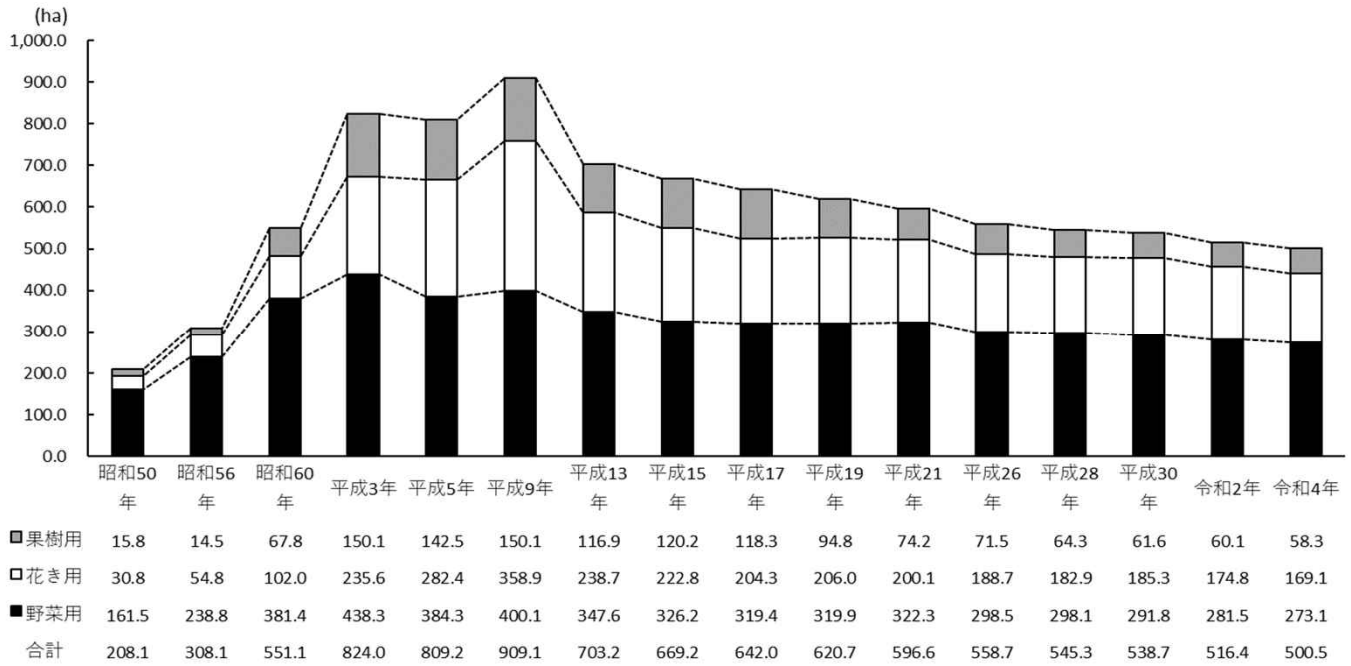
(農林水産統計年報)

耕地の拡張・かい廃の推移



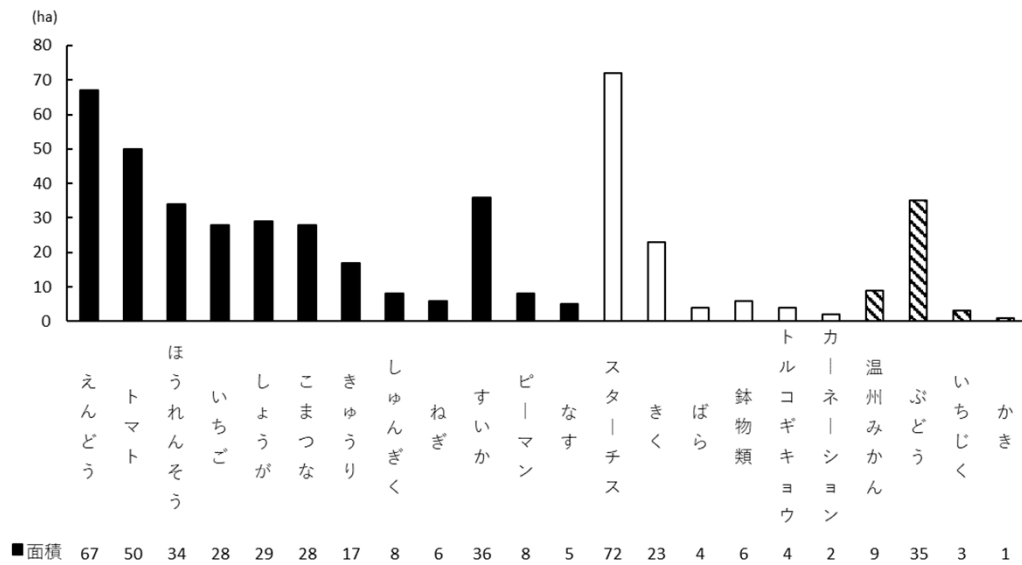
(農林水産統計年報)

施設設置面積の推移



(園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査：昭和50年～平成21年)
 (園芸用施設の設置等の状況：平成26年～令和4年)

主要品目別施設栽培延面積（令和4年）



施設園芸作物付延面積の推移

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年
野菜	197	358	663	580	432	380	382	377	419	400	408	401	367	346
花き	35	79	180	276	266	210	220	211	205	176	199	189	190	179
果樹	16	15	80	137	117	120	118	92	74	72	64	62	60	58
合計	248	452	923	993	815	710	720	680	698	648	671	652	617	583

(園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査：昭和50年～平成21年)
 (園芸用施設の設置等の状況：平成26年～令和4年)

4) 農業生産

作付面積は年々減少傾向にある。

年間作付延面積の推移

	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成29年	令和2年	令和3年	令和4年
合計(ha)	51,600	48,300	45,400	44,200	39,900	37,500	34,300	33,700	32,200	30,600	29,700	28,700	28,300	27,800
稲(%)	36.6	33.1	28.5	26.9	25.3	25.2	24.1	23.8	23.7	22.6	-	-	-	-
野菜(%)	15.9	16.1	16.5	15.0	13.2	11.5	10.1	9.8	8.3	8.1	-	-	-	-
果樹(%)	39.7	46.2	49.6	52.3	54.1	56.8	59.7	60.8	63.4	65.0	-	-	-	-
その他(%)	7.8	4.6	5.4	5.8	7.4	6.5	6.1	5.6	4.6	4.3	-	-	-	-

(※平成29年以降の構成割合は不明。)

(農林水産統計年報)

作付面積の構成 (令和4年)

令和4年	果樹					
	みかん	うめ	かき	もも	すもも	キウイ フルーツ
面積(ha)	7,200	5,310	2,500	713	283	167
割合(%)	25.9	19.1	9.0	2.6	1.0	0.6

令和4年	稲	野菜					その他	合計
	水稲	えんどう	キャベツ	はくさい	だいこん	たまねぎ		
面積(ha)	5,980	218	178	131	118	98	4,904	27,800
割合(%)	21.5	0.8	0.6	0.5	0.4	0.4	17.6	100.0

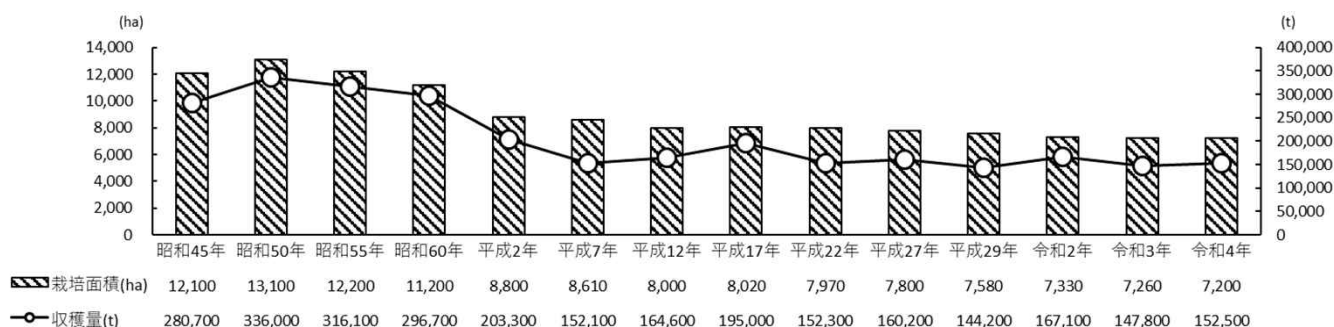
(農林水産統計年報)

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

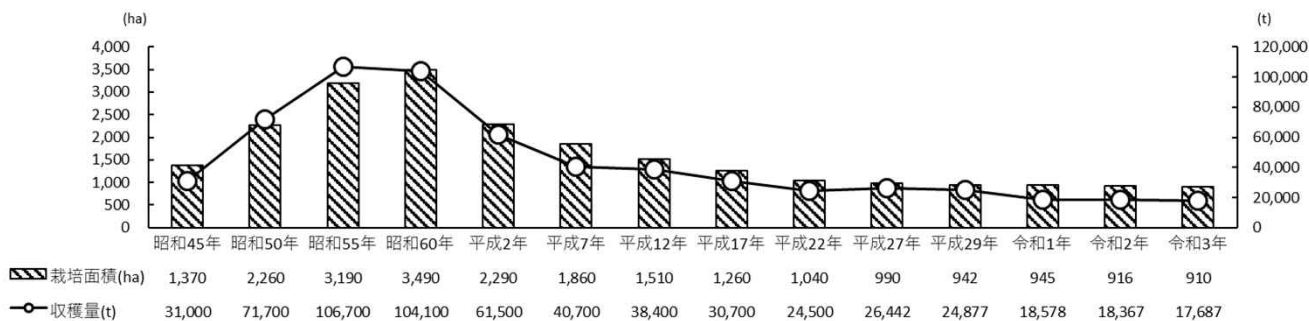
- みかん : みかんの過剰生産とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少したが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく : みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積が増加したが、その後減少傾向に転じ、近年はその傾向が鈍化している。
- 不知火 : 平成の後期にかけて、みかん、なつみかん、いよかん等の転換作物として栽培面積が増加したが、近年は横ばい傾向にある。

令和4年の全国順位とシェア(栽培面積) : みかん 1位 (18.9%)

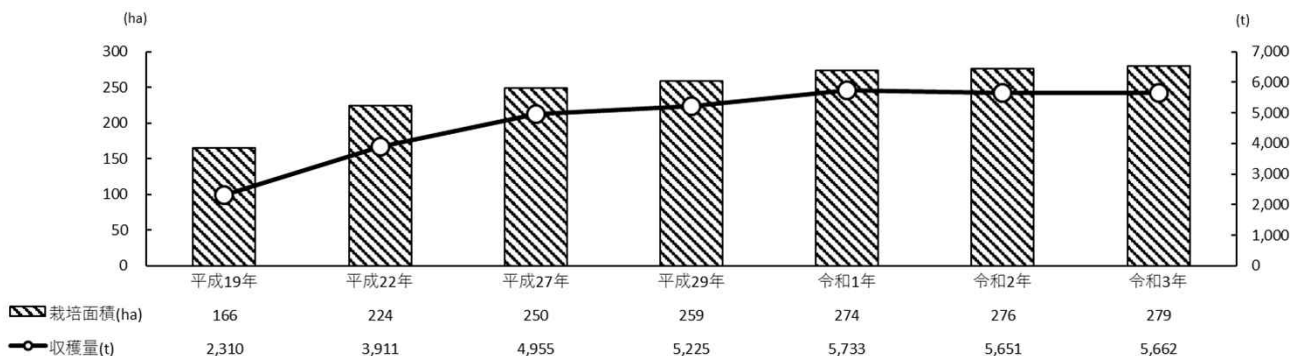
a みかん



b はっさく



c 不知火



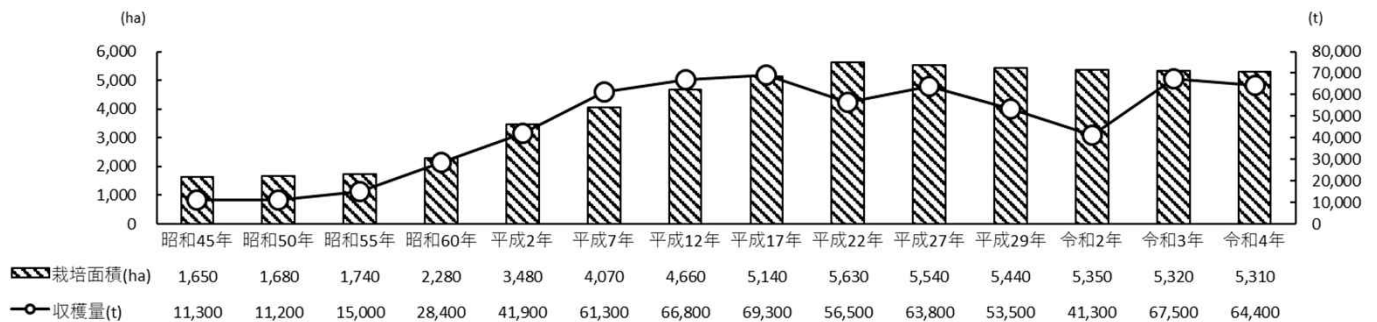
(農林水産統計年報・特産果樹生産動態等調査)

落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

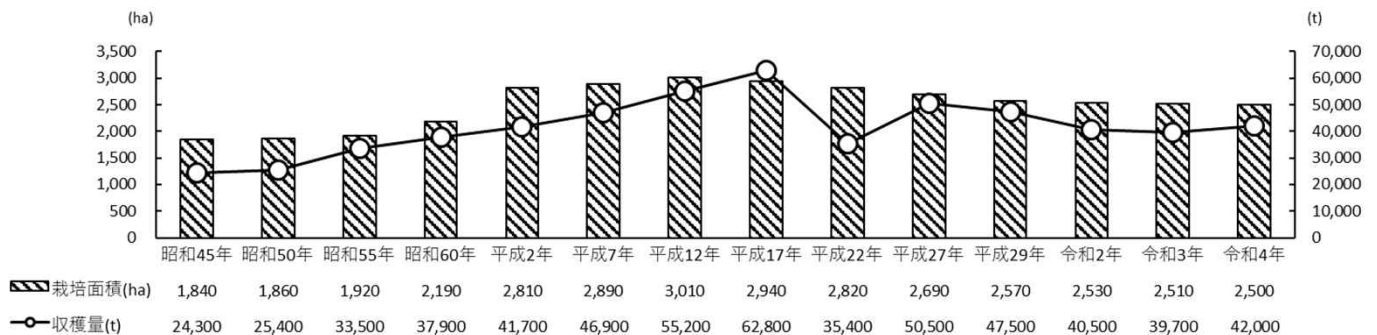
落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、近年は減少傾向にある。

- うめ：健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、平成20年をピークに近年は減少傾向にある。
- かき：昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成12年をピークに近年は減少傾向にある。
- もも：昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成10年をピークに近年は減少傾向にある。
- すもも・キウイフルーツ：平成2年をピークに栽培面積は減少したが、近年は横ばいとなっている。

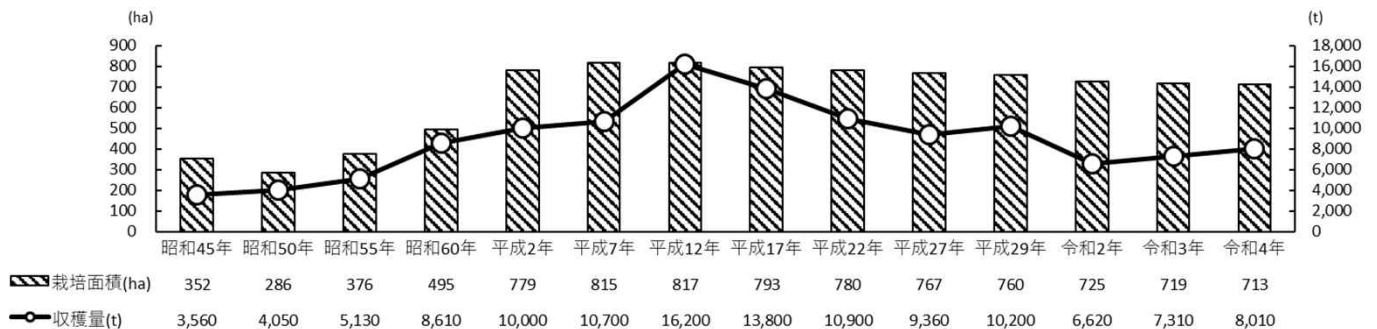
a うめ



b かき

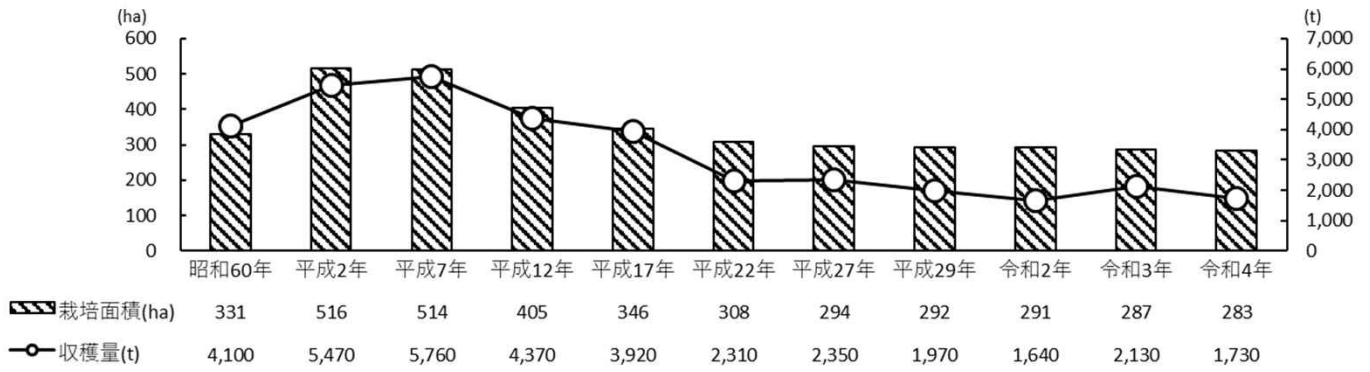


c もも

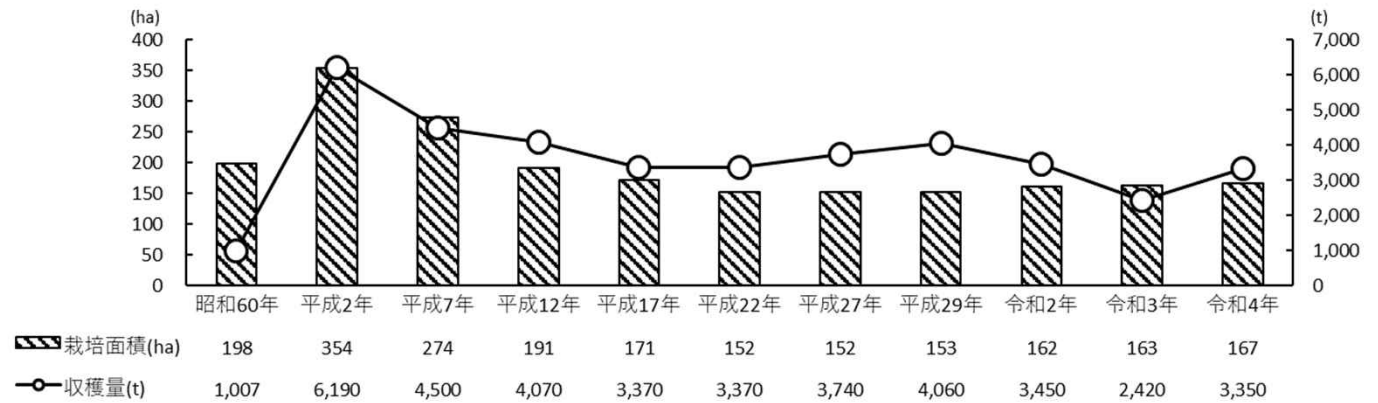


(農林水産統計年報)

d すもも



e キウイフルーツ



(農林水産統計年報)

落葉果樹の栽培面積

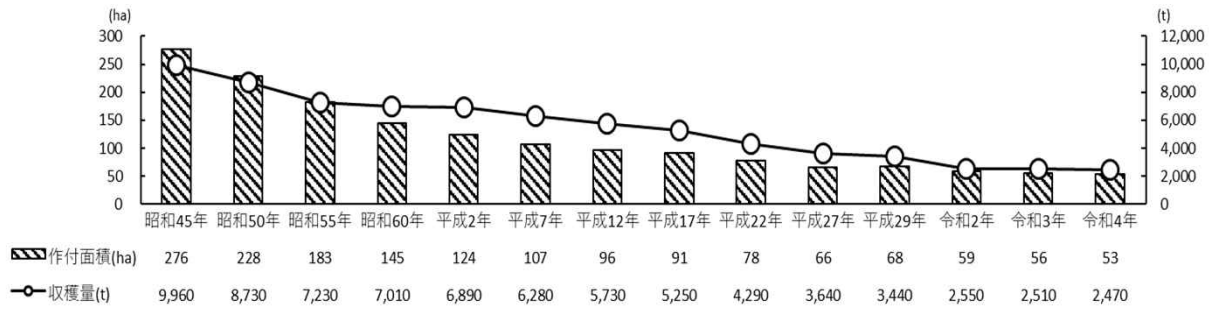
令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
うめ	14,200	5,310	1	37.4	和歌山	群馬	福井
かき	18,300	2,500	1	13.7	和歌山	奈良	岐阜
もも	9,990	713	4	7.1	山梨	福島	長野
すもも	2,810	283	3	10.1	山梨	長野	和歌山
キウイフルーツ	2,030	167	3	8.2	愛媛	福岡	和歌山

(農林水産省作物統計)

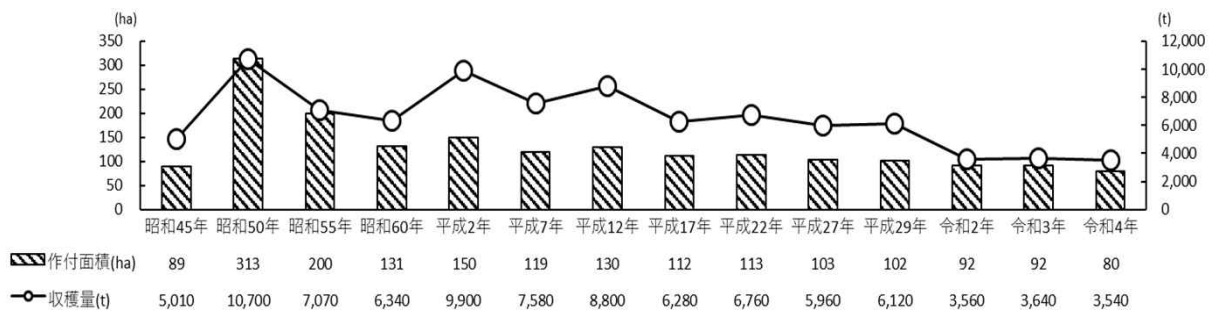
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

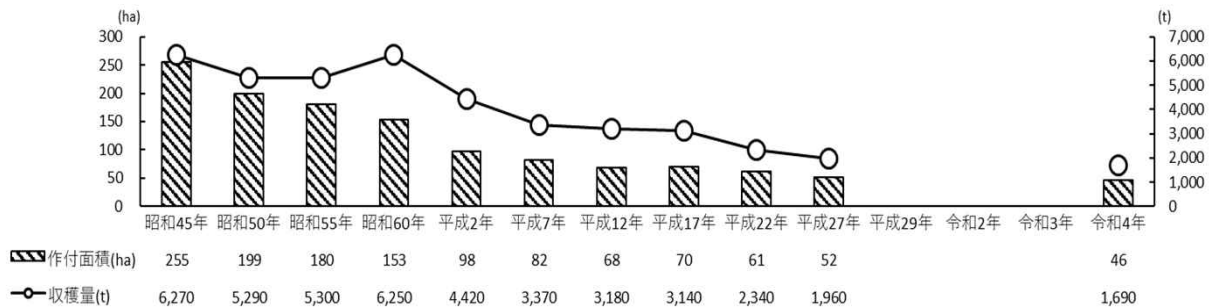
a きゅうり



b トマト（ミニトマトを含む）

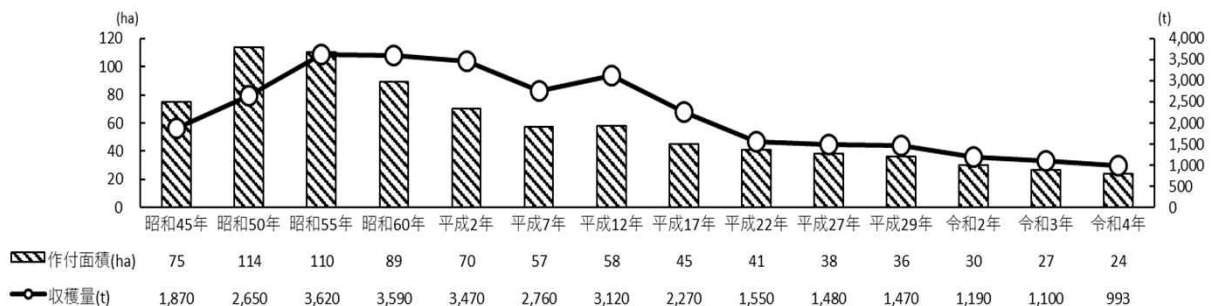


c なす



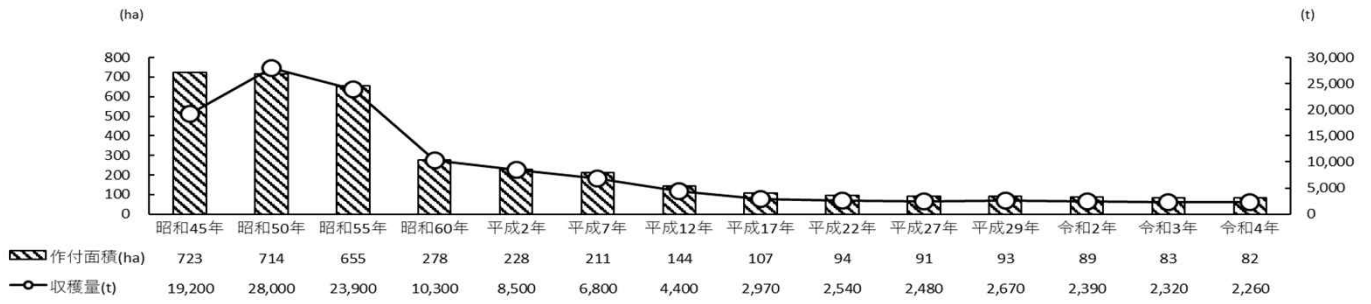
※平成29年、令和2年、3年の数値はない。

d ピーマン（ししとう含む）

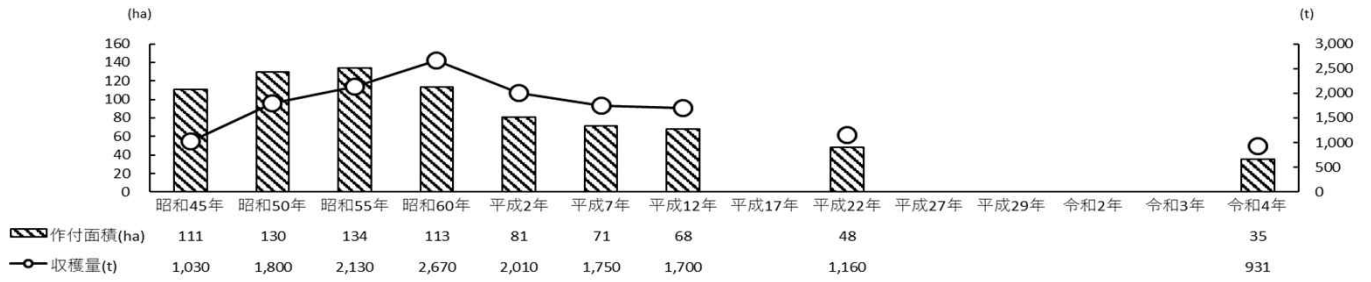


(野菜生産出荷統計)

e すいか



f いちご



※平成17年、27年、29年、令和2年、3年の数値はない。

(野菜生産出荷統計)

果菜類の作付面積

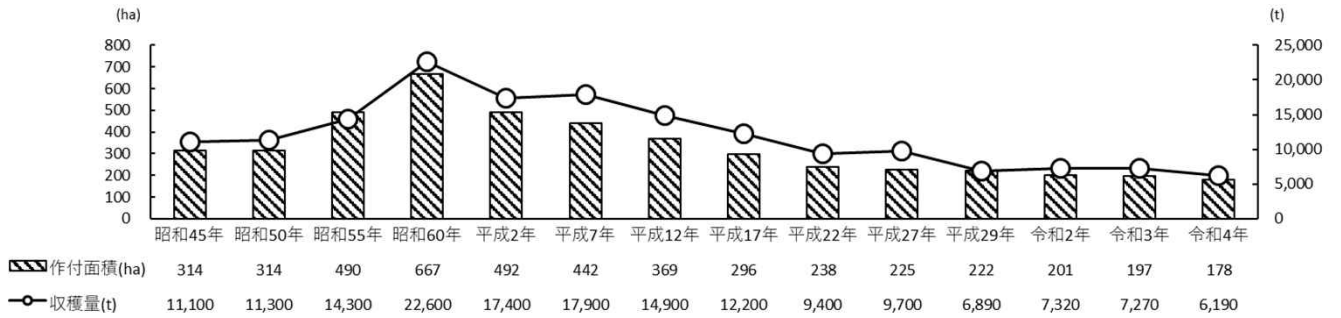
令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
きゅうり	9,770	53	44	0.5	群馬	福島	宮崎
トマト	11,200	80	39	0.7	熊本	茨城	北海道
ピーマン	3,170	24	34	0.8	茨城	宮崎	岩手
すいか	8,940	82	25	0.9	熊本	千葉	山形

(※県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

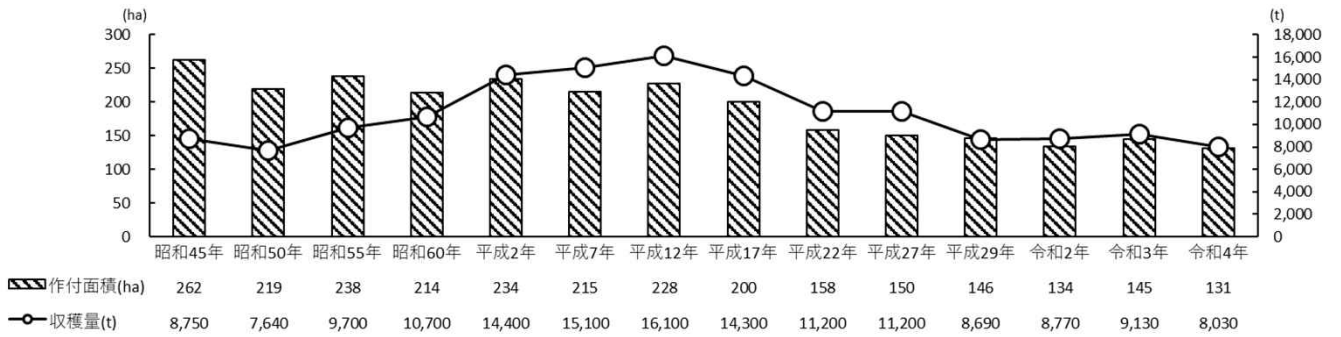
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

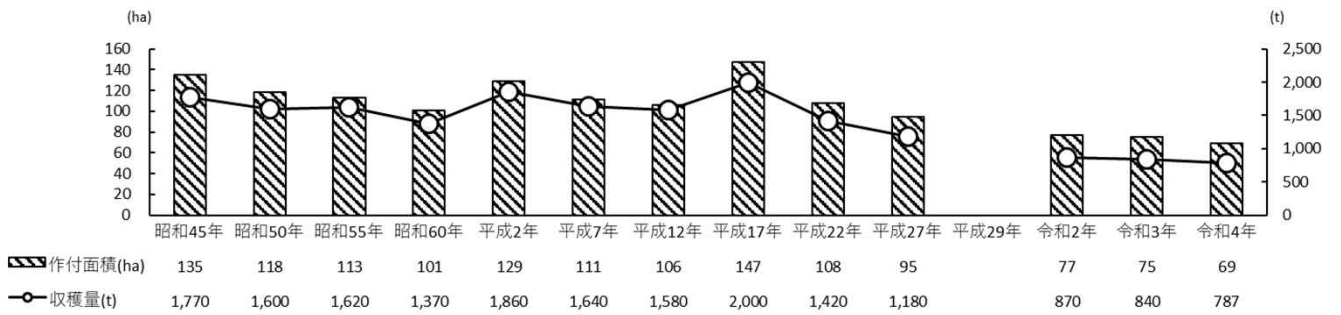
a キャベツ



b はくさい

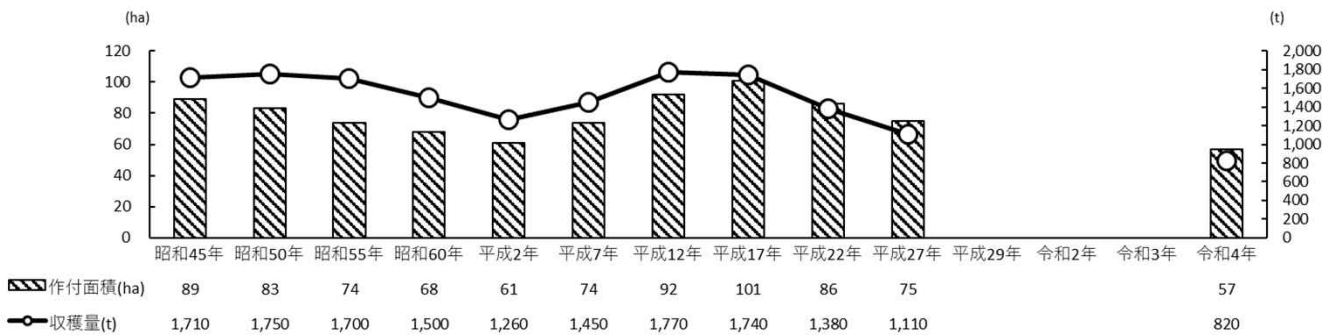


c ほうれんそう



※平成29年の数値はない。

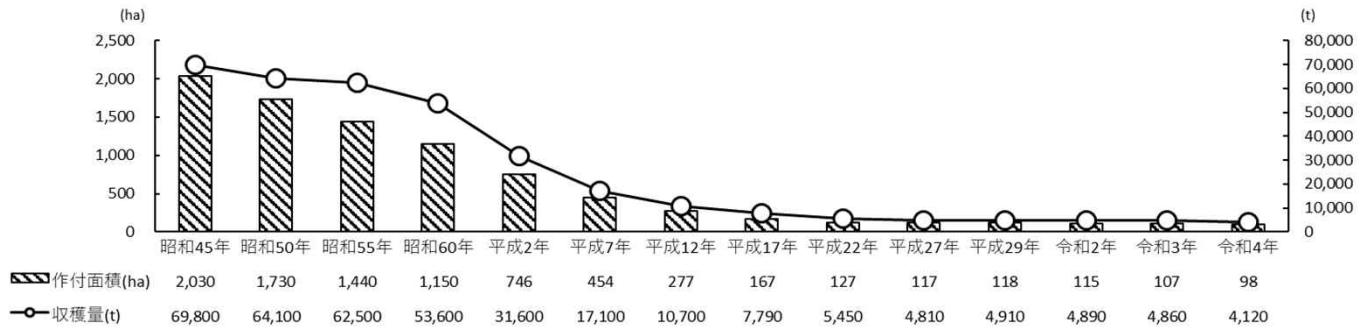
d ねぎ



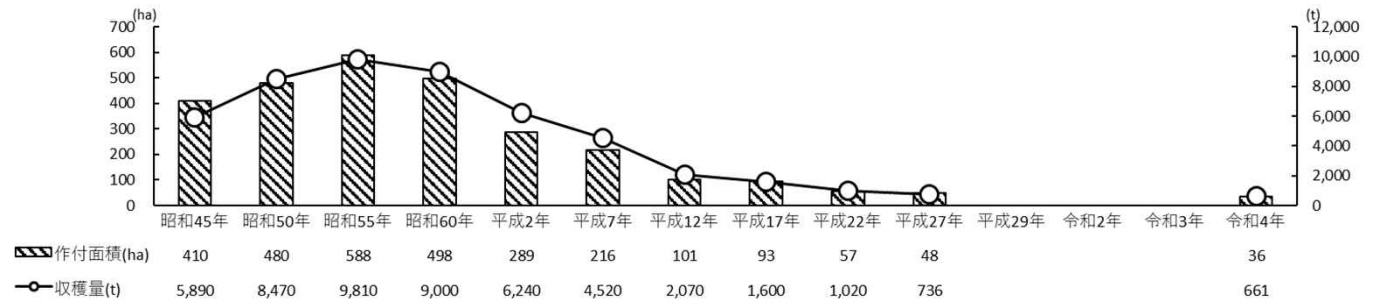
※平成29年、令和2年、3年の数値はない。

(野菜生産出荷統計)

e たまねぎ



f レタス



※平成29年、令和2年、3年の数値はない。

(野菜生産出荷統計)

葉茎菜類の作付面積

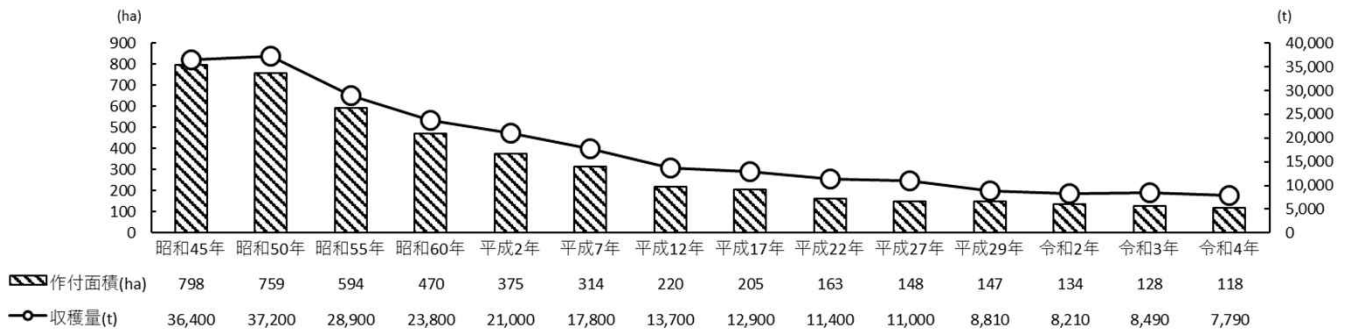
令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
キャベツ	33,900	178	37	0.5	愛知	群馬	千葉
はくさい	16,000	131	31	0.8	茨城	長野	北海道
たまねぎ	25,200	98	33	0.4	北海道	佐賀	兵庫

(※県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

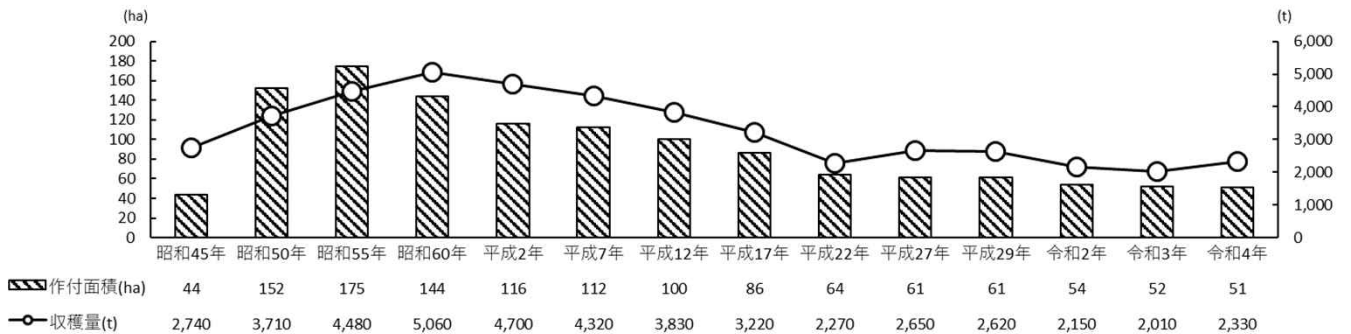
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

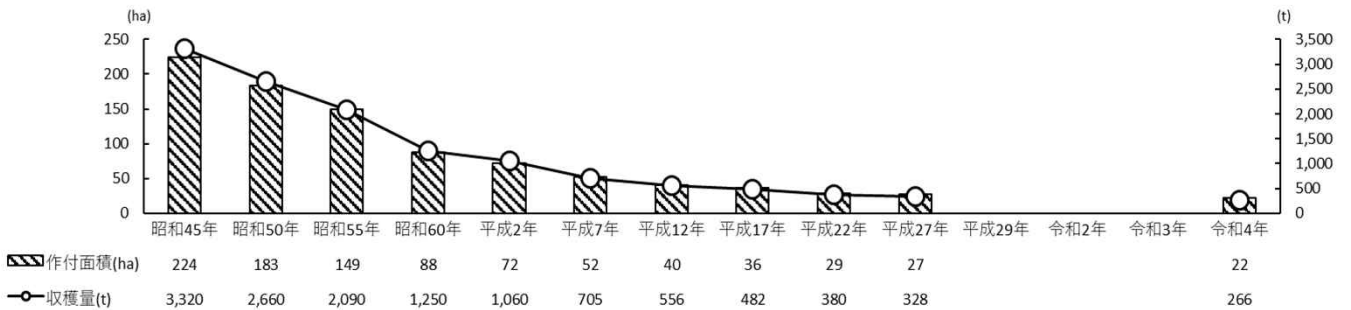
a だいこん



b にんじん

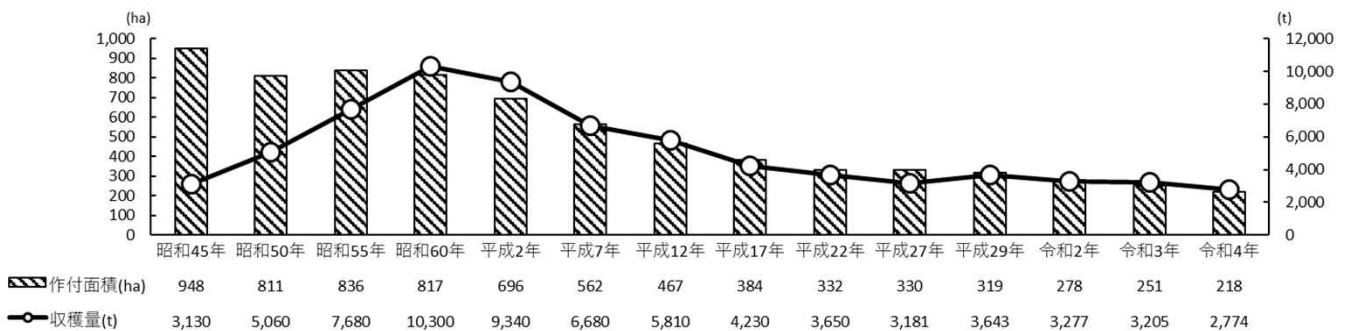


c さといも



※平成29年、令和2年、3年の数値はない。

d えんどう



(野菜生産出荷統計)

根菜類及び豆類の作付面積

令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
だいこん	28,100	118	42	0.4	北海道	青森	千葉
にんじん	16,500	51	36	0.3	北海道	千葉	青森
えんどう	3,250	218	3	6.7	鹿児島	福島	和歌山

(野菜生産出荷統計)

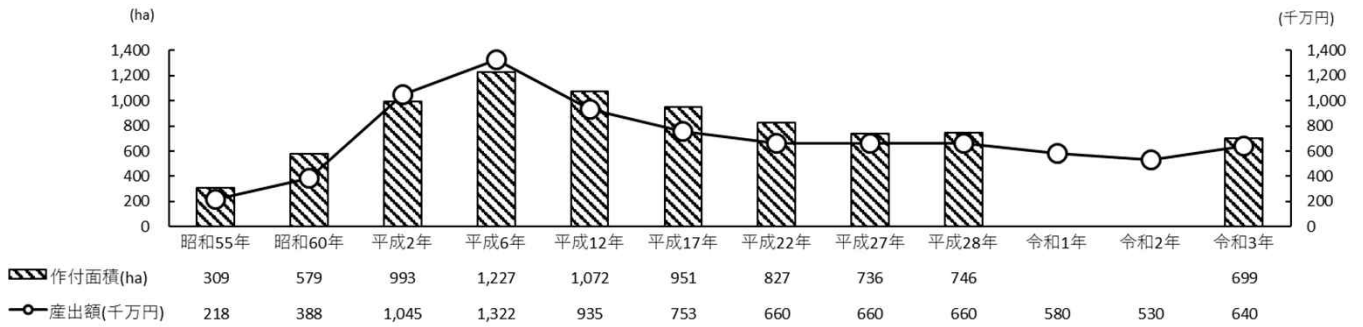
(※1 県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

(※2 えんどうは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダの合計。)

花き生産の推移

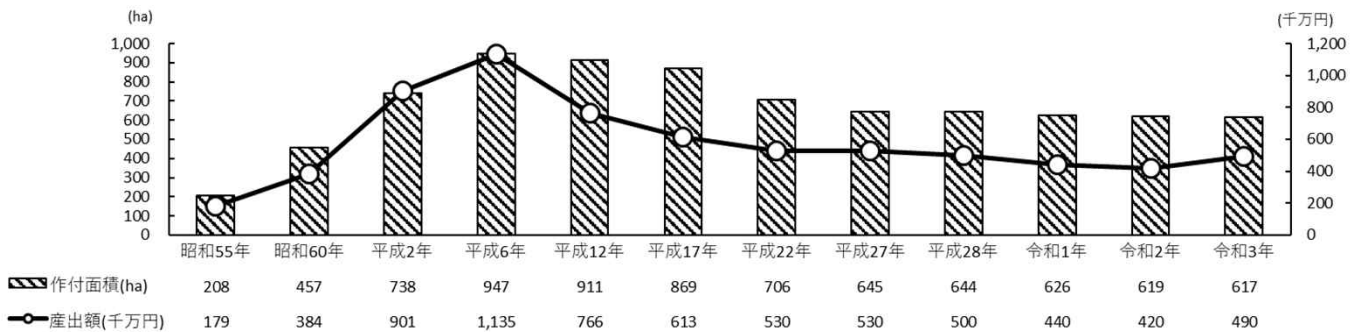
花き全体の栽培面積は昭和60年から平成2年にかけて需要の増加や野菜からの転換により急激に増加し、平成6年にピークとなった。その後減少に転じ、近年は横ばいになっている。

a 総計

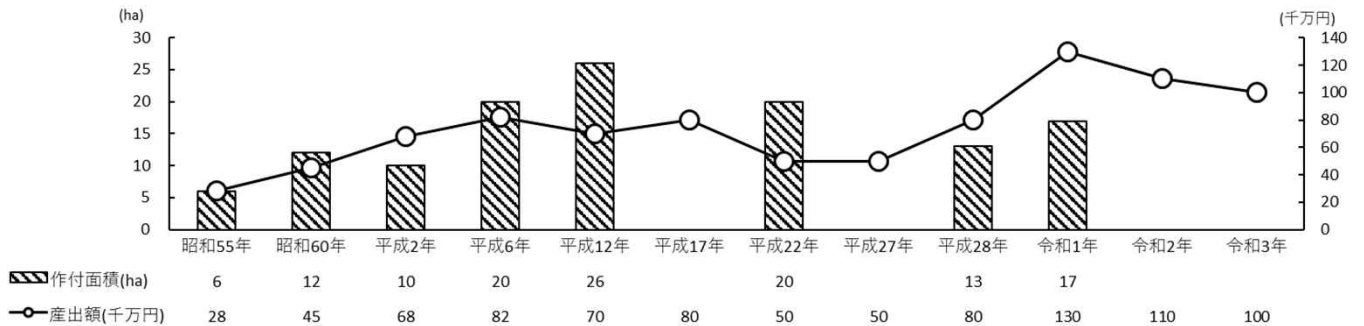


b 切花

※令和1、2年の作付面積の数値はない。

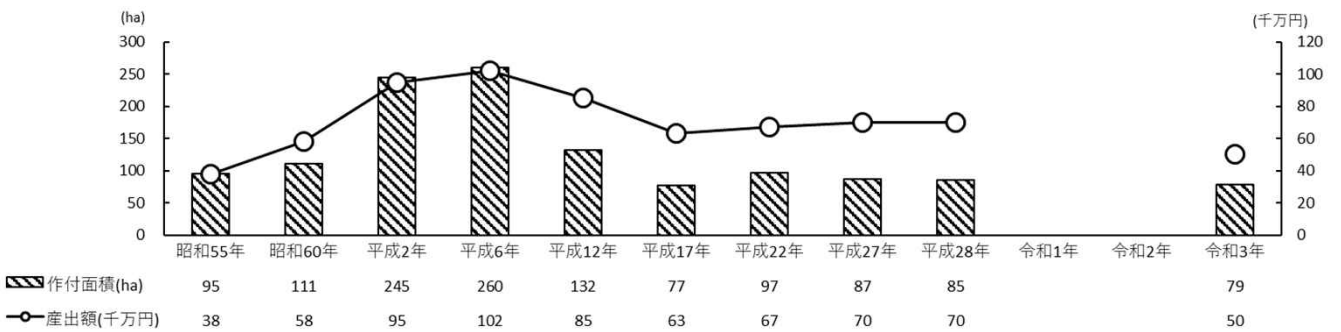


c 鉢物・花壇苗



※平成17年、27年、令和2年、3年の作付面積の数値はない。

d 花木類

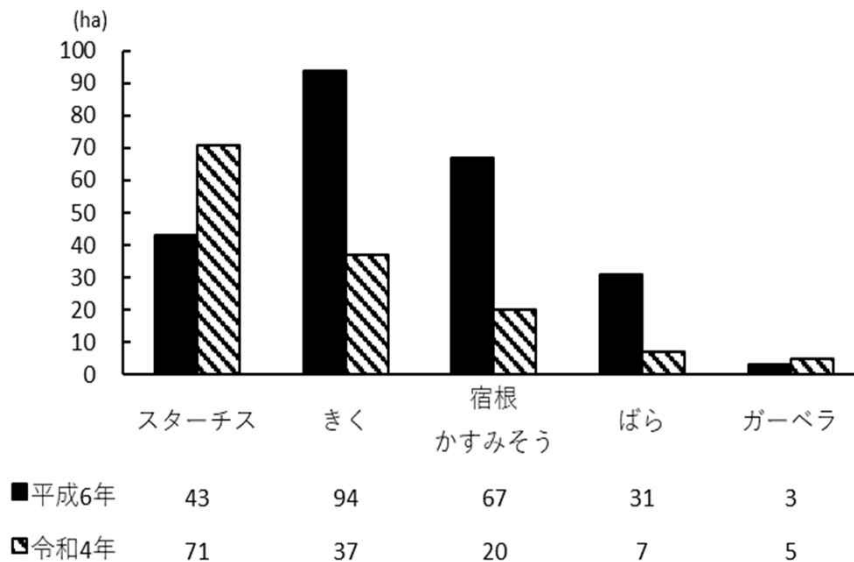


※令和1、2年の作付面積、産出額の数値はない。

※ただし、産出額のうち、a総計の一部（花木類、地被植物類）及びd花木類については出荷額
 産出額：品目別生産量×品目別農家家庭先販売価格
 出荷額：出荷された農作物の金額

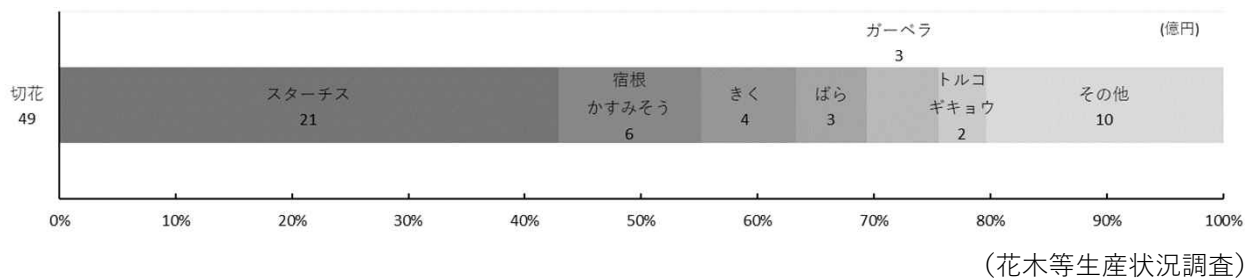
（花き生産出荷統計、花木等生産状況調査）

主要切花の作付面積



※きくのみ令和元年の数値（令和2年以降は、作付け面積を3年ごとに調査）
（花き生産出荷統計）

切花生産額の品目別割合（令和3年）



（花木等生産状況調査）

花き産出額

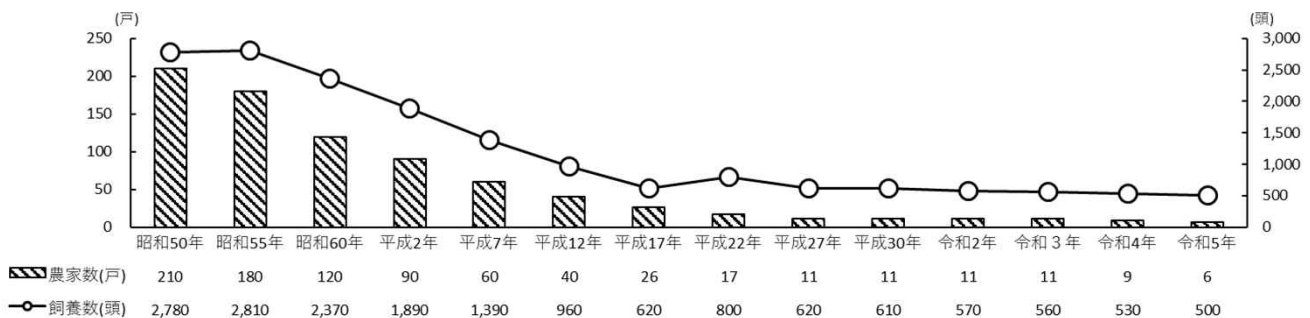
令和3年	全国	和歌山			全国順位		
	産出額(億円)	産出額(億円)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
スターチス	53	21	1	39.6	和歌山	北海道	長野

（花木等生産状況調査）

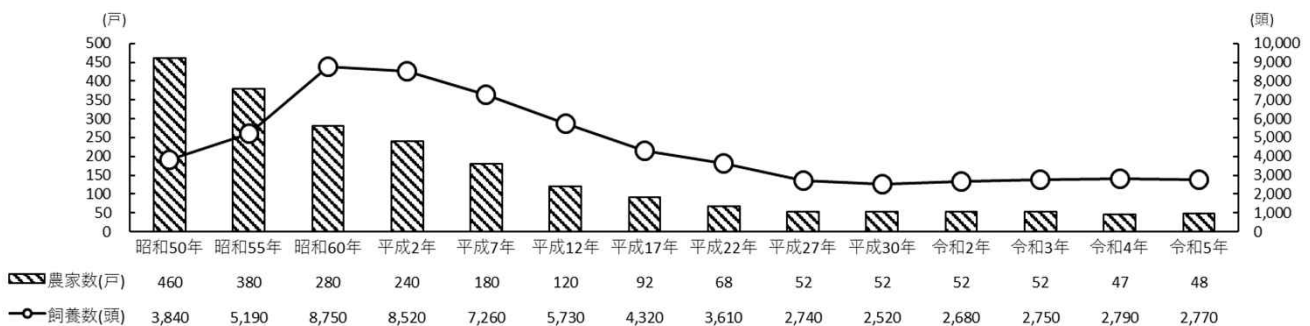
家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。
 (採卵鶏の農家戸数は平成元年から300羽以上のみ、平成9年から1,000羽以上のみ、平成14年から種鶏農家除く。)

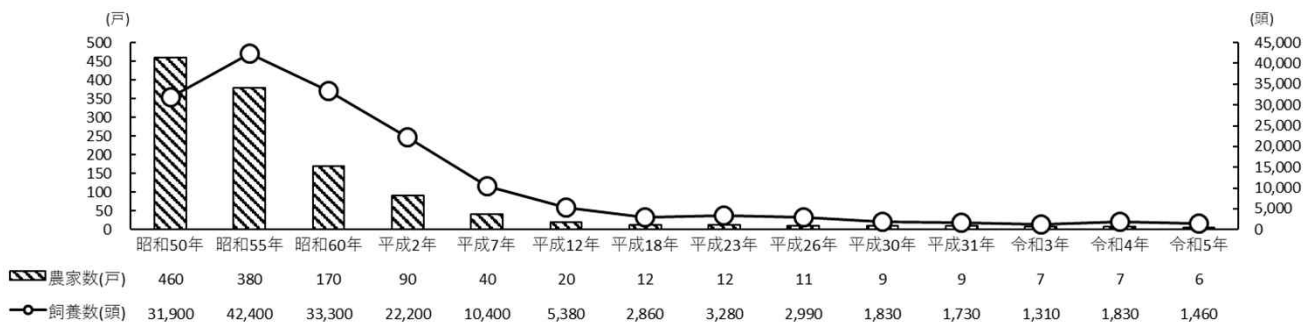
a 乳用牛



b 肉用牛

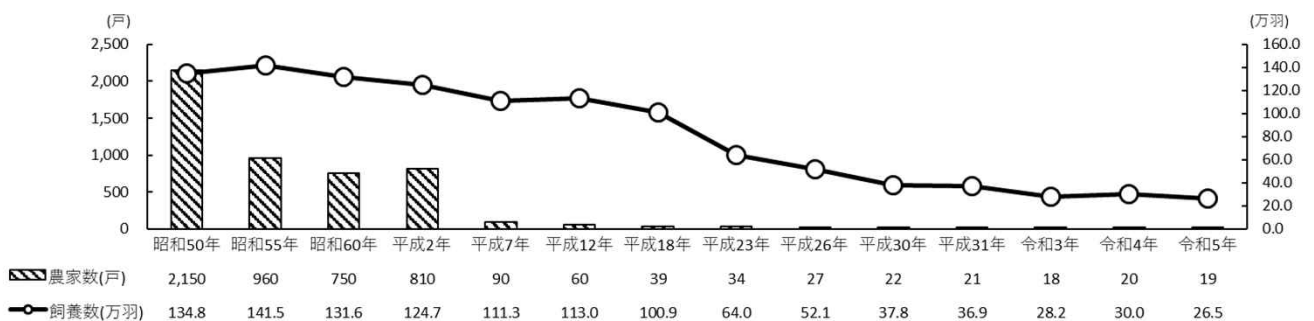


c 豚



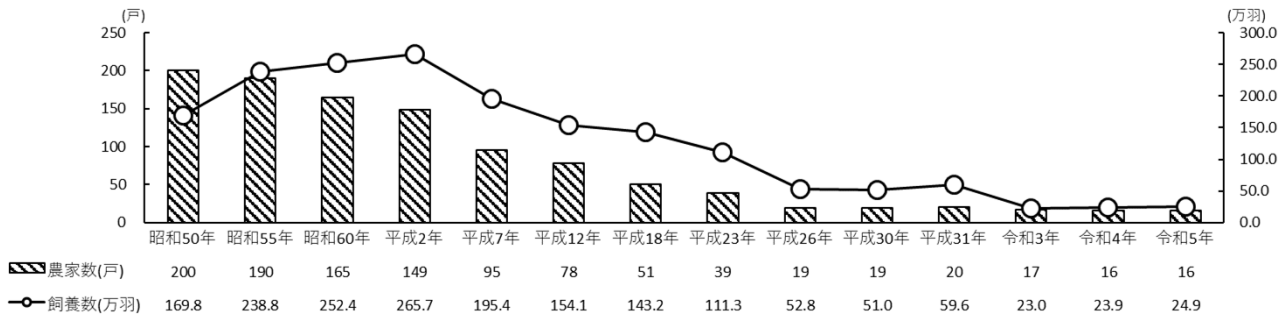
※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、頭数の数値はない。

d 採卵鶏



※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、羽数の数値はない。(農林水産省「畜産統計調査」)

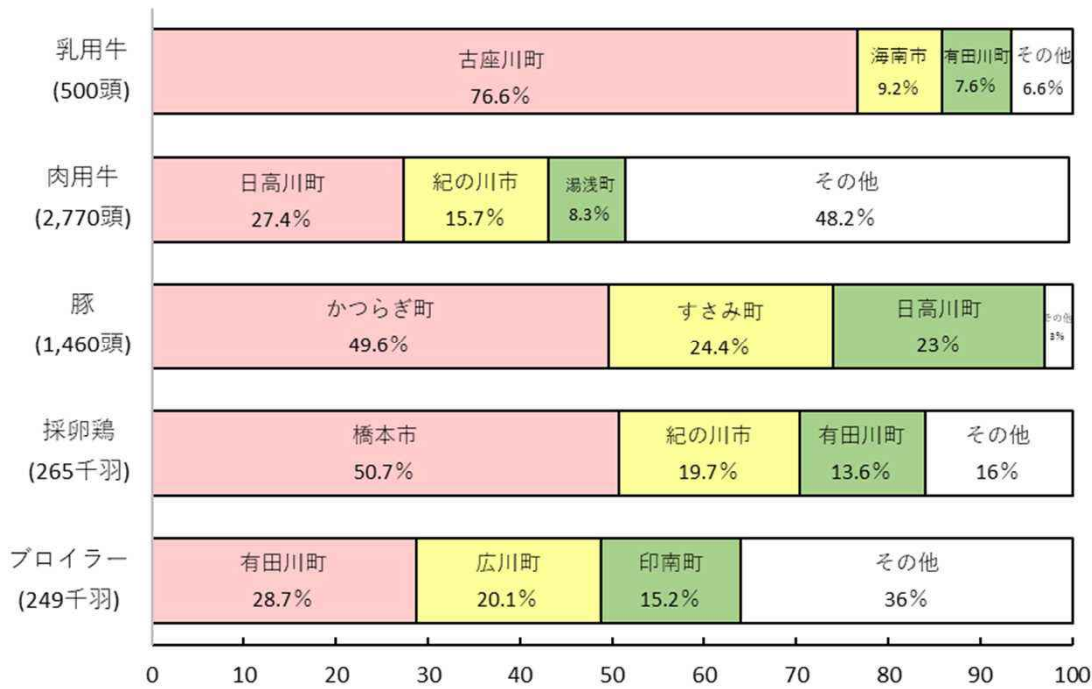
e ブロイラー



※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、羽数の数値はない。
平成23年は県畜産課業務資料

(農林水産統計年報)

市町村別・家畜飼養頭羽数 (令和5年)



(県畜産課業務資料)

家畜の飼養頭羽数・戸数

	令和5年	全国	和歌山		全国順位			
			順位	シェア(%)	1位	2位	3位	
飼養頭羽数	乳用牛 (頭)	1,356,000	500	47	0.0	北海道	栃木	熊本
	肉用牛 (頭)	2,687,000	2,790	44	0.1	北海道	鹿児島	宮崎
	豚 (頭)	8,956,000	1,460	46	0.0	鹿児島	宮崎	北海道
	採卵鶏 (千羽)	172,265	265	42	0.2	千葉	茨城	鹿児島
	ブロイラー (千羽)	141,463	249	-	0.2	鹿児島	宮崎	岩手
飼養戸数 (戸)	乳用牛	12,600	6	47	0.1	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	38,600	47	42	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	3,370	6	43	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	1,760	19	32	1.1	愛知	鹿児島	千葉
	ブロイラー	2,100	16	23	0.8	宮崎	鹿児島	岩手

(農林水産省「畜産統計調査」 乳用牛、肉用牛豚、採卵鶏、ブロイラー：令和5年2月1日現在)

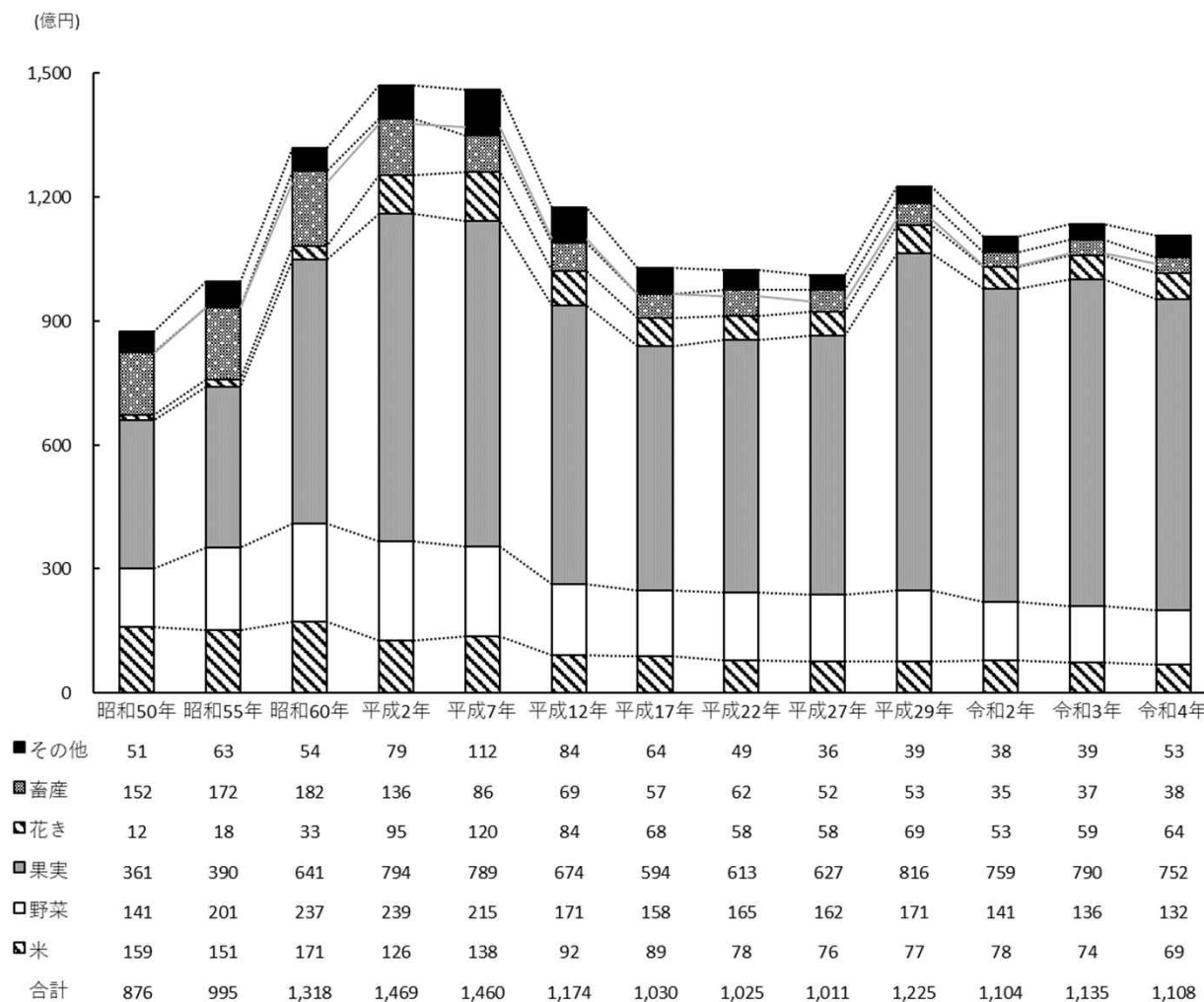
※ブロイラーの飼養頭羽数の和歌山県の順位は、飼養頭羽数の数値がXとなっている県があるため、確定できない。
X：個人または法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

5) 農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成3年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60～70%程度の産出額で推移している。

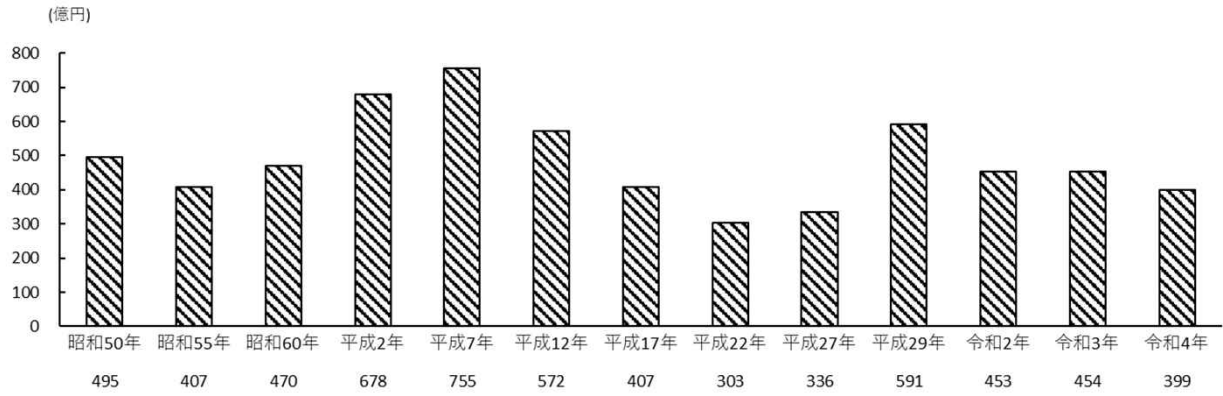
また、生産農業所得も同様の傾向で令和4年は399億円となり、平成8年をピークに減少傾向にあり、近年はピーク時の75%程度で横ばいとなっている。

農業産出額の推移



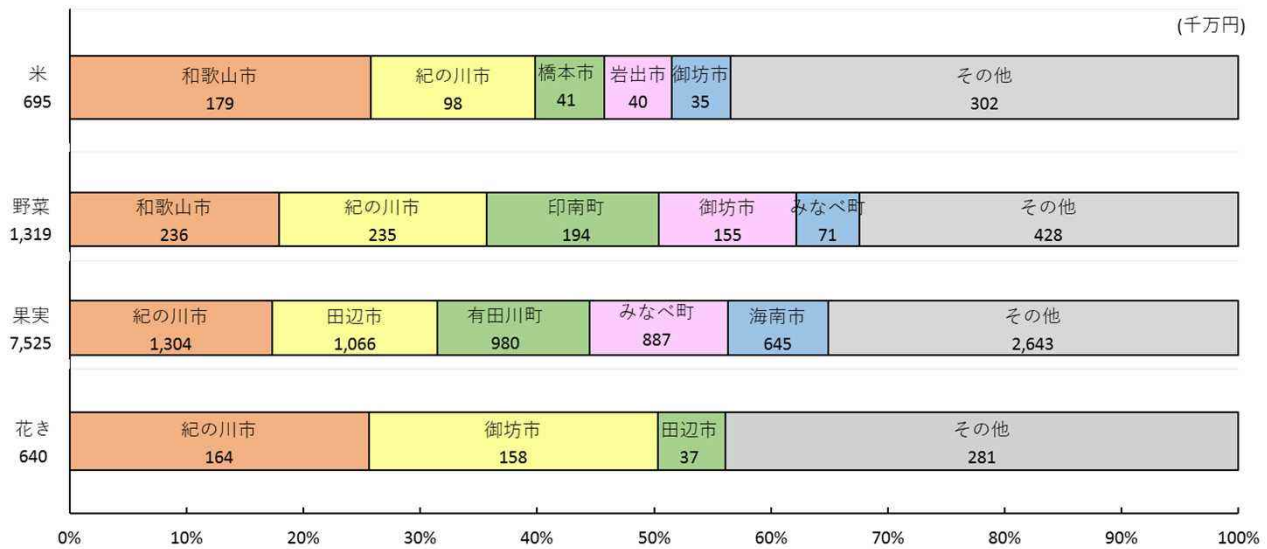
(農林水産統計年報)

生産農業所得（県計）の推移



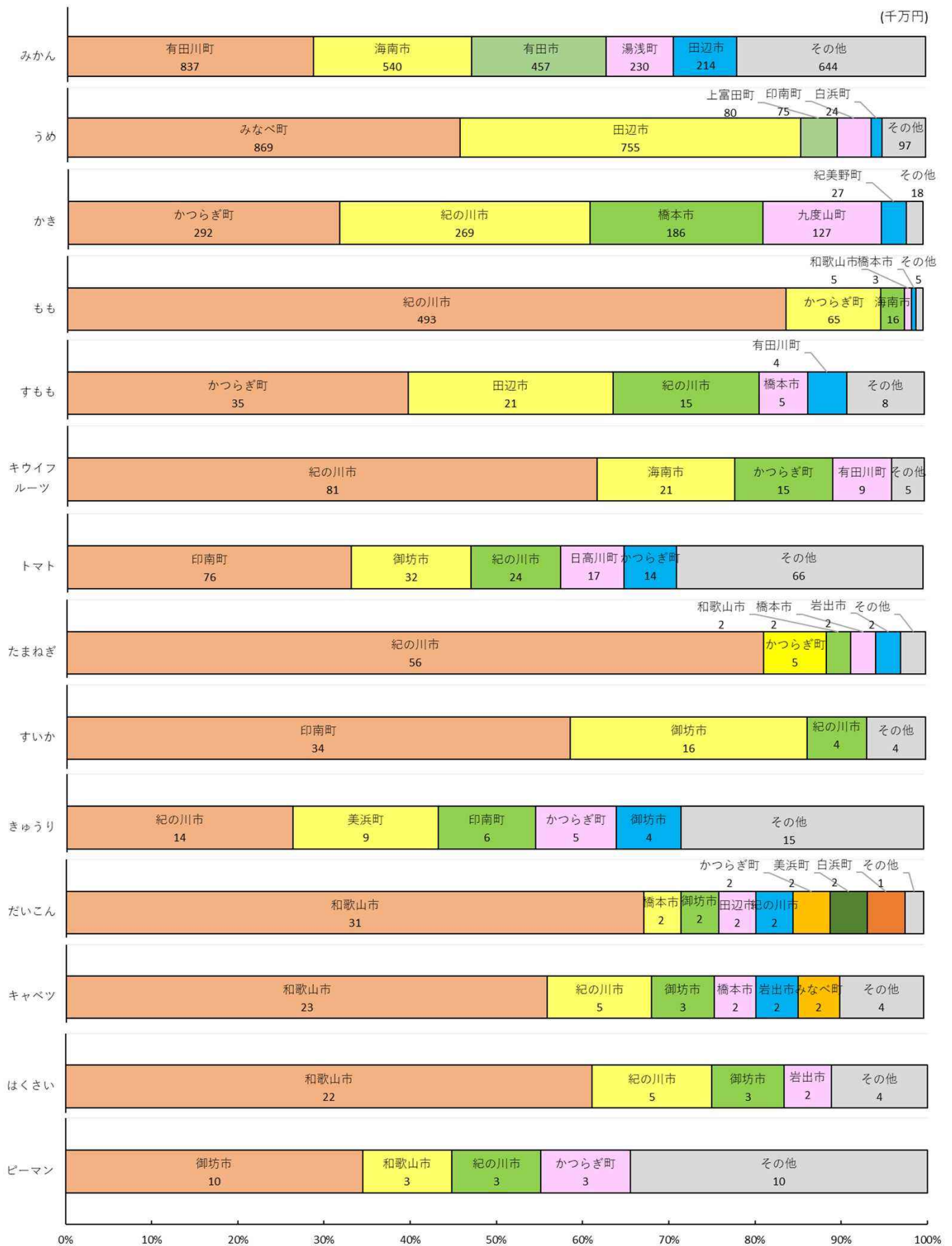
(農林水産統計年報)

市町村別・部門別農業産出額（令和4年）



(市町村別農業産出額（推計）)

市町村別・品目別農業産出額（令和4年）



(市町村別農業産出額（推計）)

農産物産出額上位10品目の推移

令和4年の農産物産出額を品目別にみると、「みかん」と「うめ」で全体の約44%を占めており、1位 みかん、2位 うめ、3位 かき、4位 米、5位 もも となっている。



(生産農業所得統計)

6) 農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備57.6%、畑地かんがい施設整備34.7%、区画整理7.0%で田の区画整理は17.7%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めている。

1 畑（果樹園・普通畑）の整備状況

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
畑面積 (ha)	25,100	24,800	24,600	24,500	24,400	24,300	24,200	23,900	23,600	23,200	22,900	22,700	22,500	22,300	22,200
農道整備済み面積 (ha)	12,204	12,253	12,344	12,348	12,359	12,458	12,496	12,695	12,720	12,776	12,777	12,777	12,777	12,777	12,777
整備率 (%)	48.6	49.4	50.2	50.4	50.7	51.3	51.6	53.1	53.9	55.1	55.8	56.3	56.8	57.3	57.6
畑地かんがい施設整備済み面積 (ha)	7,501	7,501	7,501	7,501	7,501	7,552	7,662	7,676	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710
整備率 (%)	29.9	30.2	30.5	30.6	30.7	31.1	31.7	32.1	32.7	33.2	33.7	34.0	34.2	34.6	34.7
区画整理済み面積 (ha)	1,520	1,520	1,525	1,525	1,539	1,551	1,551	1,562	1,562	1,562	1,562	1,565	1,565	1,565	1,565
整備率 (%)	6.1	6.1	6.2	6.2	6.3	6.4	6.4	6.5	6.6	6.7	6.8	6.9	6.9	7.0	7.0

- ・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
- ・畑地かんがい整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
- ・区画整理には、農地造成を含む

2 田の整備状況

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
田面積 (ha)	10,900	10,700	10,600	10,500	10,300	10,300	10,100	9,870	9,740	9,610	9,520	9,460	9,330	9,260	9,160
区画整理済み面積 (ha)	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,601	1,607	1,613	1,623
整備率 (%)	14.6	14.8	14.8	15.1	15.4	15.5	15.9	16.2	16.4	16.7	16.8	16.9	17.2	17.4	17.7

- ・区画整理には、30a未満の小区画を含む

3 土地改良施設の整備状況

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
農業水利施設延長 (km)	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	682	750
保全対策済み延長	24	40	50	52	68	79	95	101	103	103	110	112	112	113	113
ため池の箇所数	5,566	5,566	5,566	5,453	5,453	5,453	5,453	5,453	5,260	5,260	5,260	5,131	5,130	4,984	4,750
整備済み箇所数	1,115	1,136	1,163	1,177	1,213	1,226	1,250	1,280	1,300	1,319	1,344	1,359	1,381	1,402	1,415
整備率 (%)	20.0	20.4	20.5	21.0	22.2	22.5	22.9	23.5	24.7	25.1	25.5	26.5	26.9	28.1	29.8
農業集落排水整備対象人口 (人)	61,878	45,003	45,291	45,231	44,781	44,425	44,188	42,920	42,657	41,468	38,952	38,736	37,977	36,275	37,629
整備済み人口	43,302	43,250	43,527	43,395	42,859	42,492	42,252	41,011	41,094	39,456	37,975	37,717	36,944	35,281	36,635
整備率 (%)	70.0	96.1	94.8	95.8	95.7	95.6	95.6	95.5	96.3	95.1	97.5	97.4	97.2	97.3	97.4
広域農道整備済み延長 (km)	66.9	68.3	68.9	69.8	70.4	71.5	72.1	73.1	73.6	75.2	75.4	75.8	77.3	77.4	77.7

- ・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長

2 林業部門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体は**340**経営体となっており、保有林規模別では、集約化が進み**30ha**以上の経営体が総数の**41%**を占め、前回調査より**18**ポイント高くなっている。また、組織形態別では、法人化していない経営体が**79%**を占めている。

保有山林規模別 林業経営体数

	3ha未満	3ha～5ha	5ha～10ha	10ha～20ha	20ha～30ha	30ha～50ha	50ha～100ha	100ha以上	保有山林無し	合計
林業経営体数	4	36	62	58	30	26	37	77	10	340
割合(%)	1.2	10.6	18.2	17.1	8.8	7.6	10.9	22.6	2.9	100.0

(2020年農林業センサス)

組織形態別 林業経営体数

	森林組合	その他法人	地方公共団体 ・財産区	法人化 していない	株式会社	合計
林業経営体数	21	9	12	271	27	340
割合(%)	6.2	2.6	3.5	79.7	7.9	100.0

(2020年農林業センサス等)

林業経営体数

令和2年	全国	和歌山		全国順位			
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	
林業経営体数	34,001	340	35	1.0	北海道	宮崎	岩手

(2020年農林業センサス)

2) 森林資源・林業生産基盤

地域別・森林面積（令和5年4月1日現在）

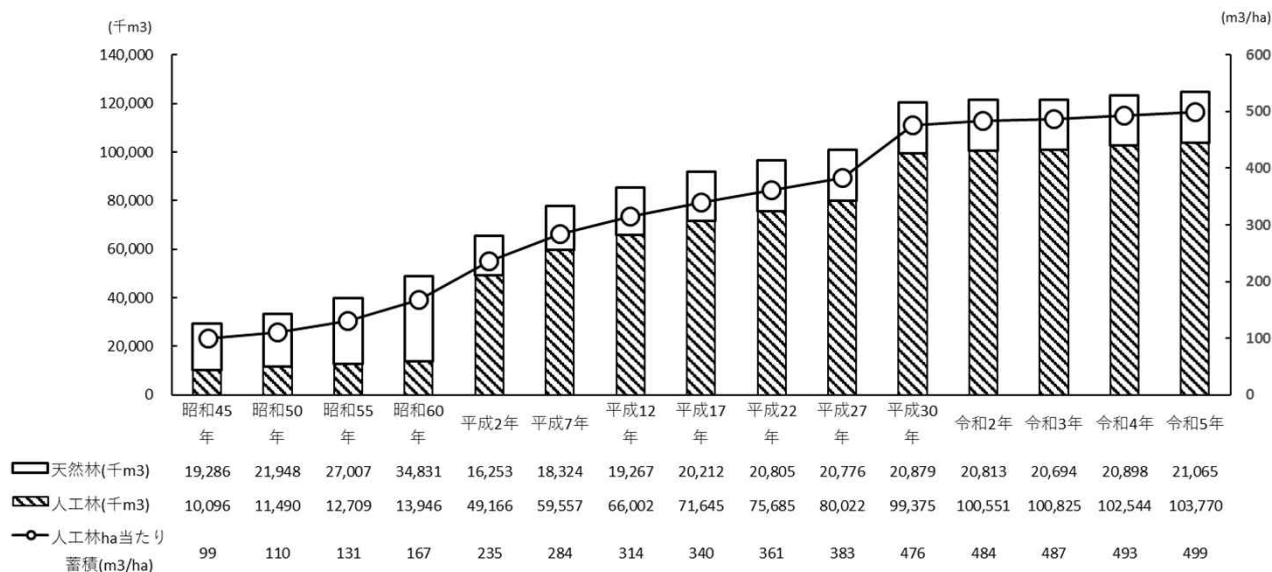
県の森林面積361,082haのうち、国有林は4.7%、民有林は95.3%です。県の森林面積の57.6%が人工林です。

	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	全県
森林面積合計(ha)	20,104	12,044	33,314	33,232	51,595	126,819	83,974	361,082
国有林(ha)	436	273	2,219	695	1,907	8,991	2,580	17,101
民有林(ha)	19,668	11,771	31,095	32,537	49,688	117,828	81,394	343,981
人工林(ha)	7,882	5,674	22,780	21,738	24,461	78,348	47,261	208,144
天然林(ha)								129,205
その他(ha)								6,632

(県林業振興課業務資料)

森林資源（私有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：343,336ha）

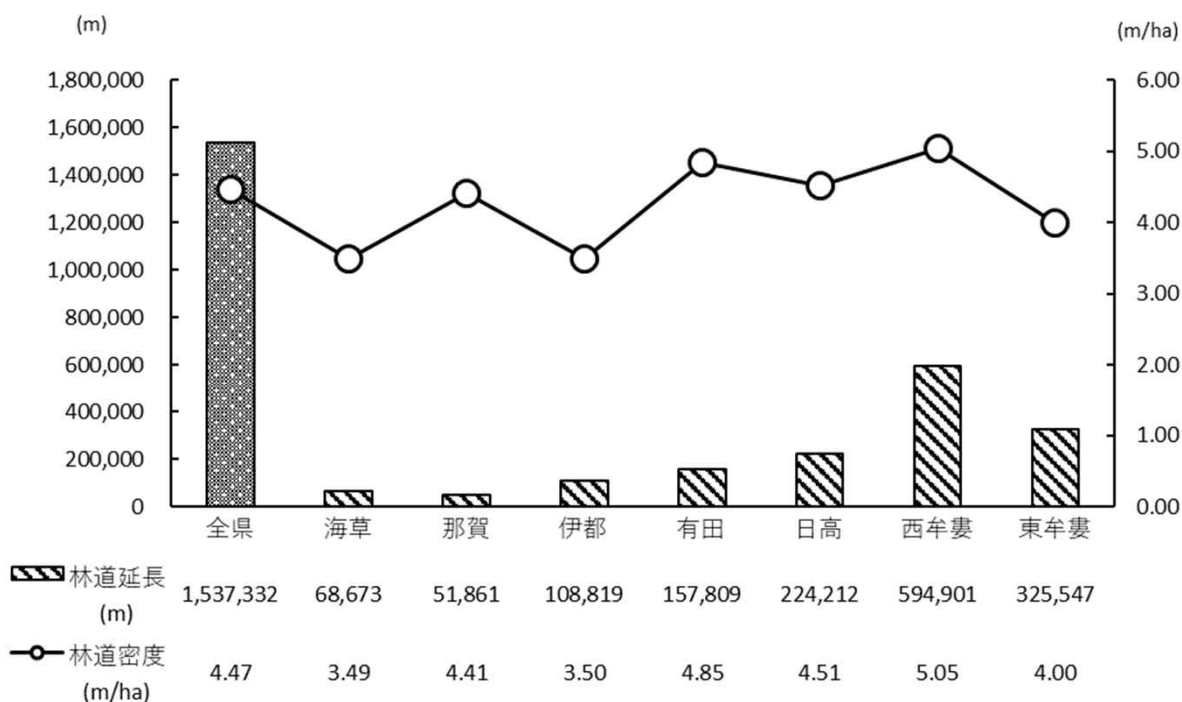
戦後植林された森林資源が成熟している。



※平成29年に人工林（スギ・ヒノキ）に関する林分材積表等各種資料の改訂を行ったため、人工林材積が大幅に変化している。（県林業振興課業務資料）

地域別私有林林道延長及び林道密度（令和5年3月31日現在）

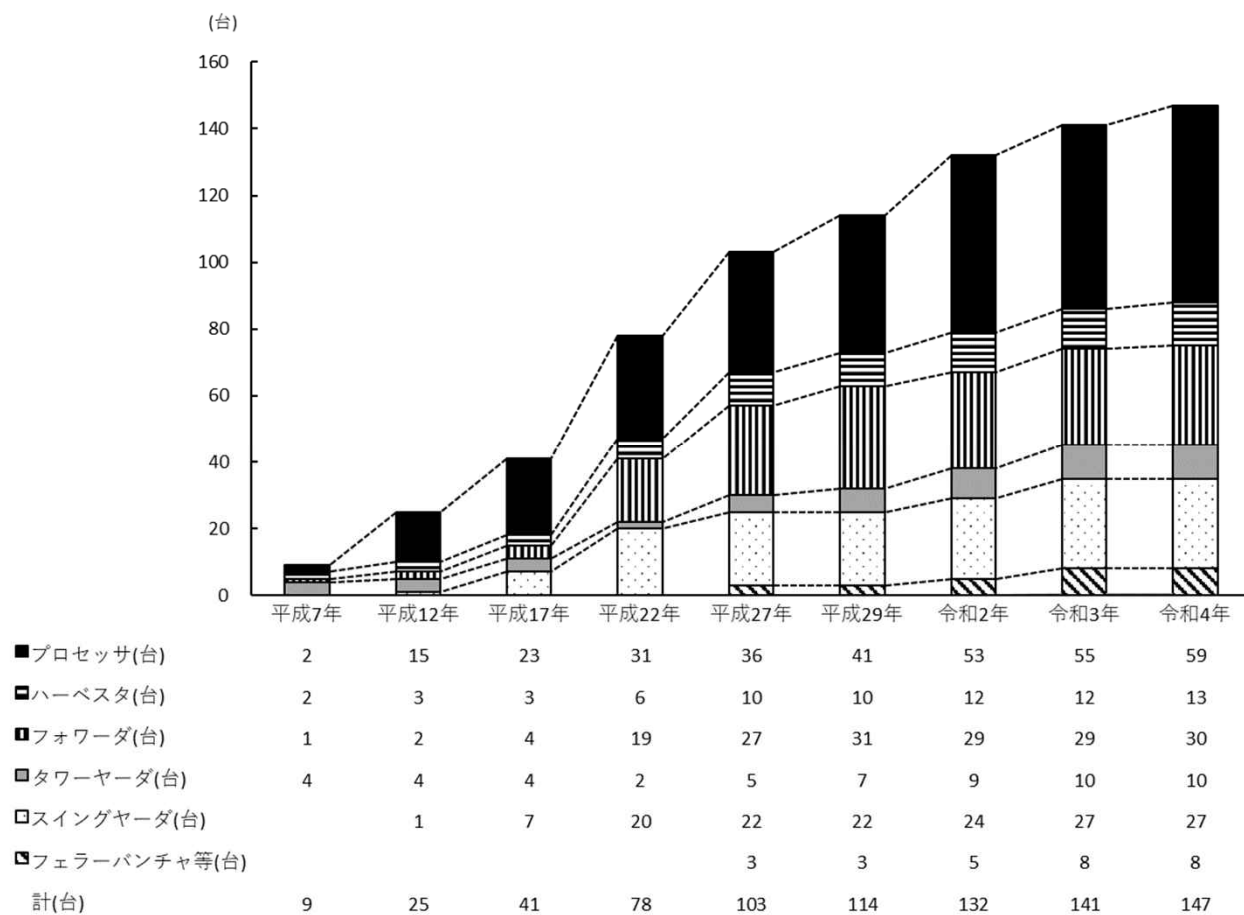
生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。



（県林業振興課業務資料 令和5年3月31日現在）

高機能林業機械保有台数（令和5年3月31日現在）

低コスト林業を推進するため、高性能林業機械の導入を進めている。

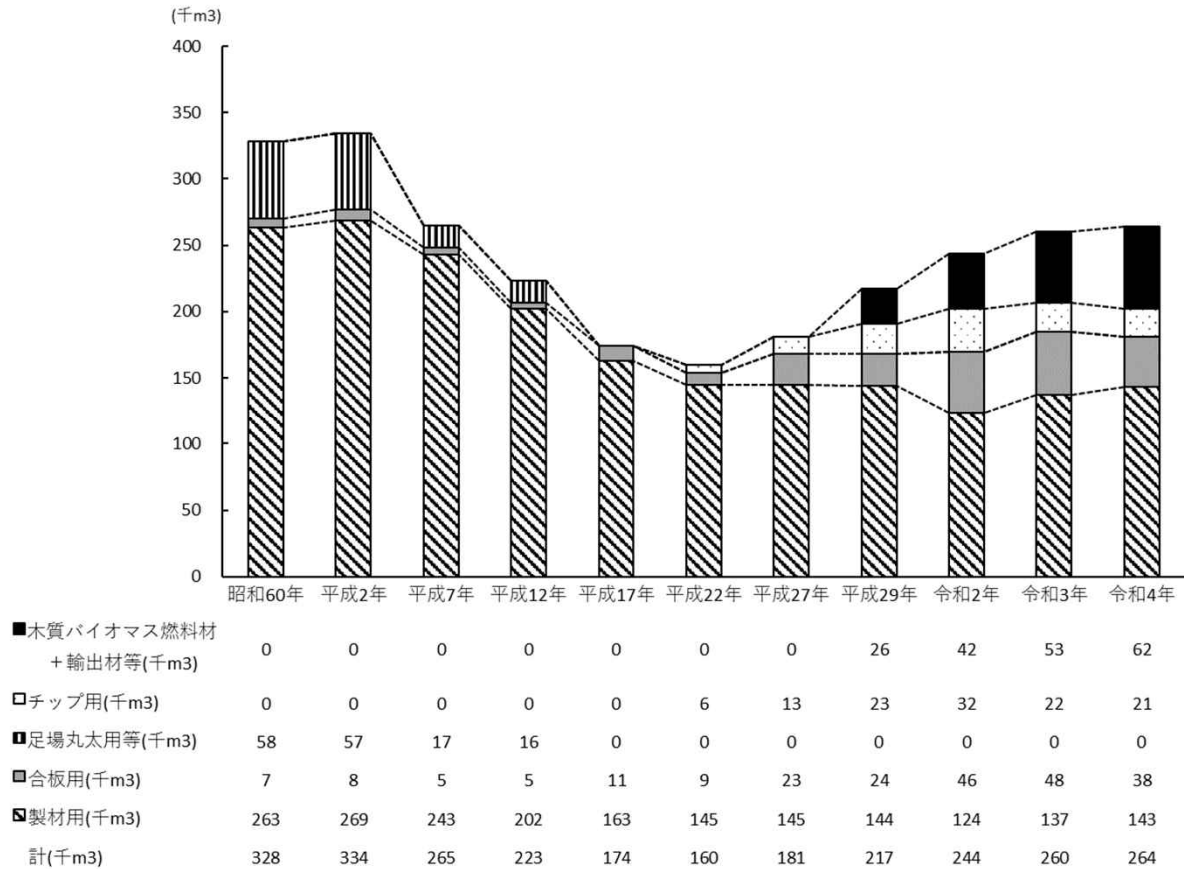


(県林業振興課業務資料)

3) 林業生産

令和4年は、主伐による木材生産が増加したことにより前年からやや増加傾向にある。合板用材は工場の受け入れ制限により減少傾向。

用途別素材生産量の推移



※平成28年から木質バイオマス燃料材+輸出材等を集計に追加しました。

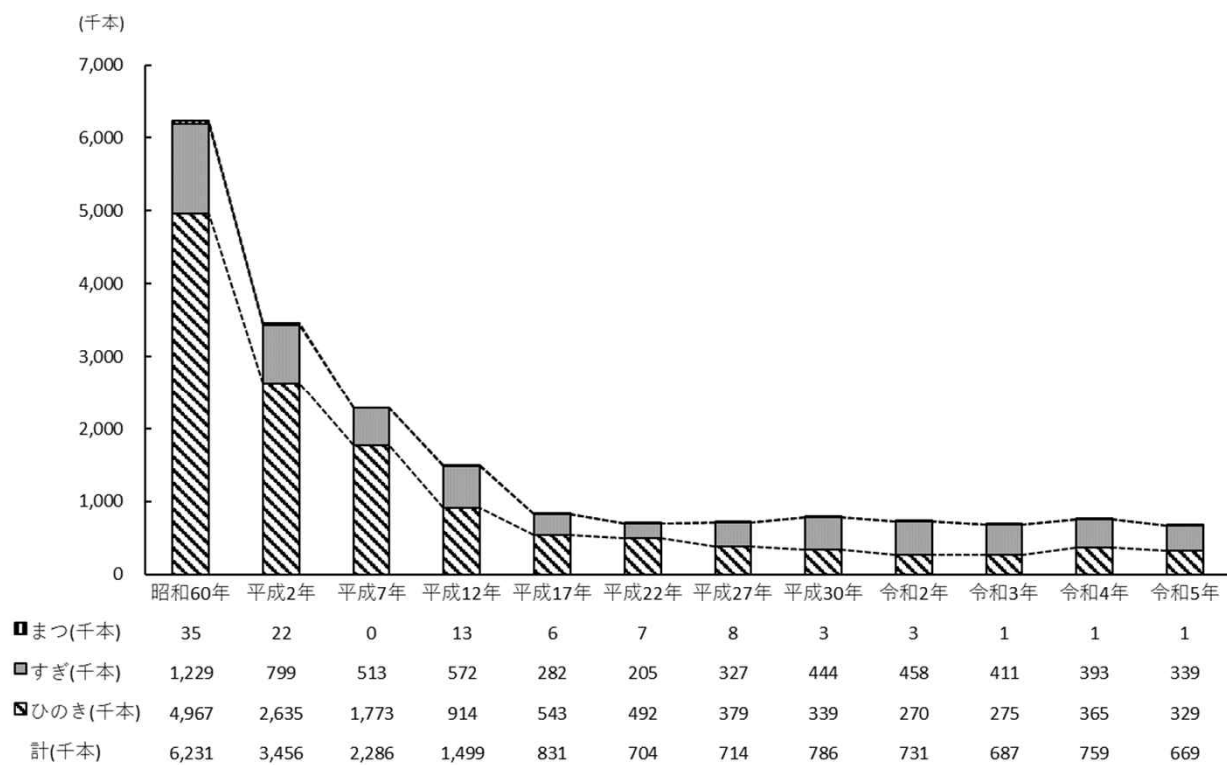
(木材需給報告書、木質バイオマスエネルギー利用動向調査、県林業振興課業務資料)

樹種別素材生産量 (令和4年)

	針葉樹			広葉樹	合計
	計	すぎ	ひのき		
素材生産量(千m ³)	257	149	108	7	264
割合(%)	97.3	58.0	42.0	2.7	100.0

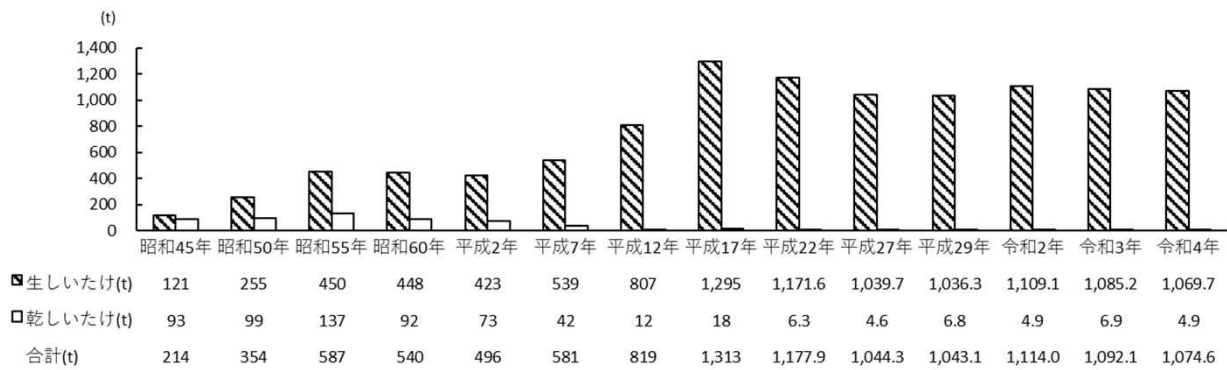
(県林業振興課業務資料)

山林用種苗生産本数の推移



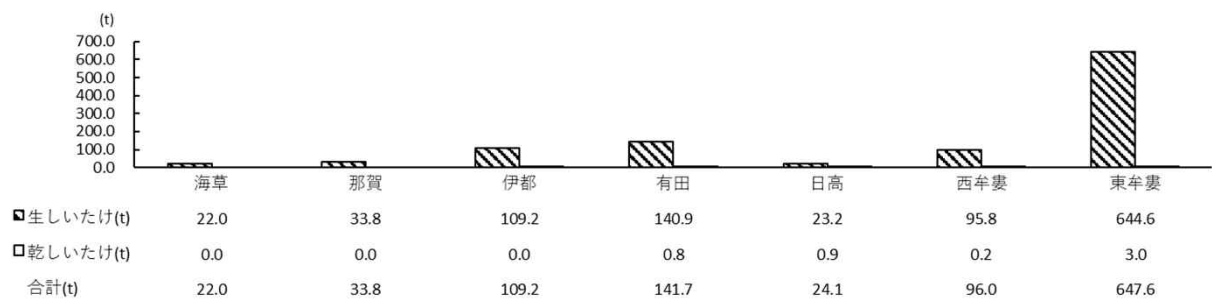
(県森林整備課業務資料)

しいたけ生産量の推移

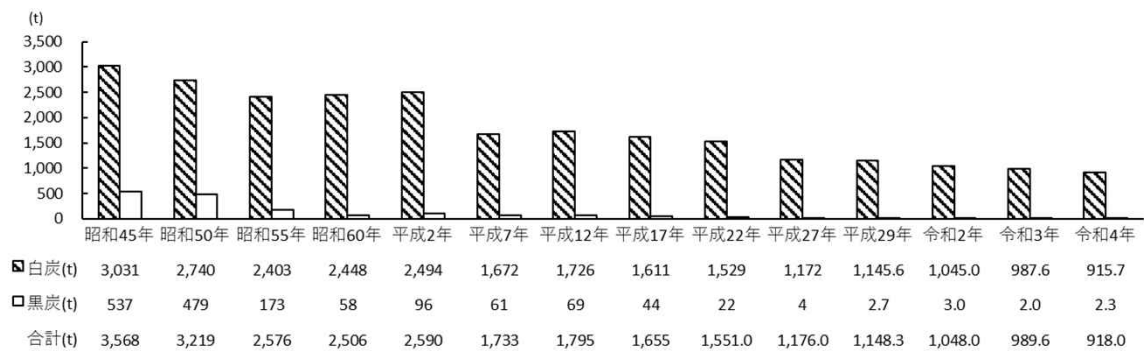


(昭和45年～平成17年は四捨五入で整数にしている。)

地域別・しいたけ生産量 (令和4年)

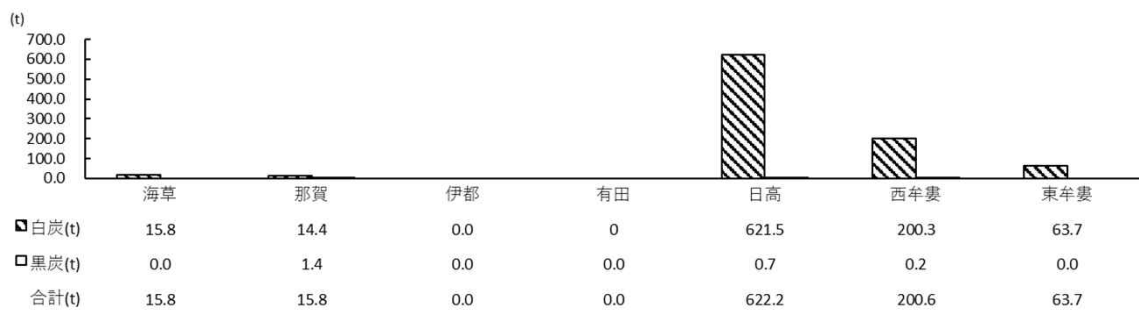


木炭生産量の推移



(昭和45年～平成27年は四捨五入で整数にしている。)

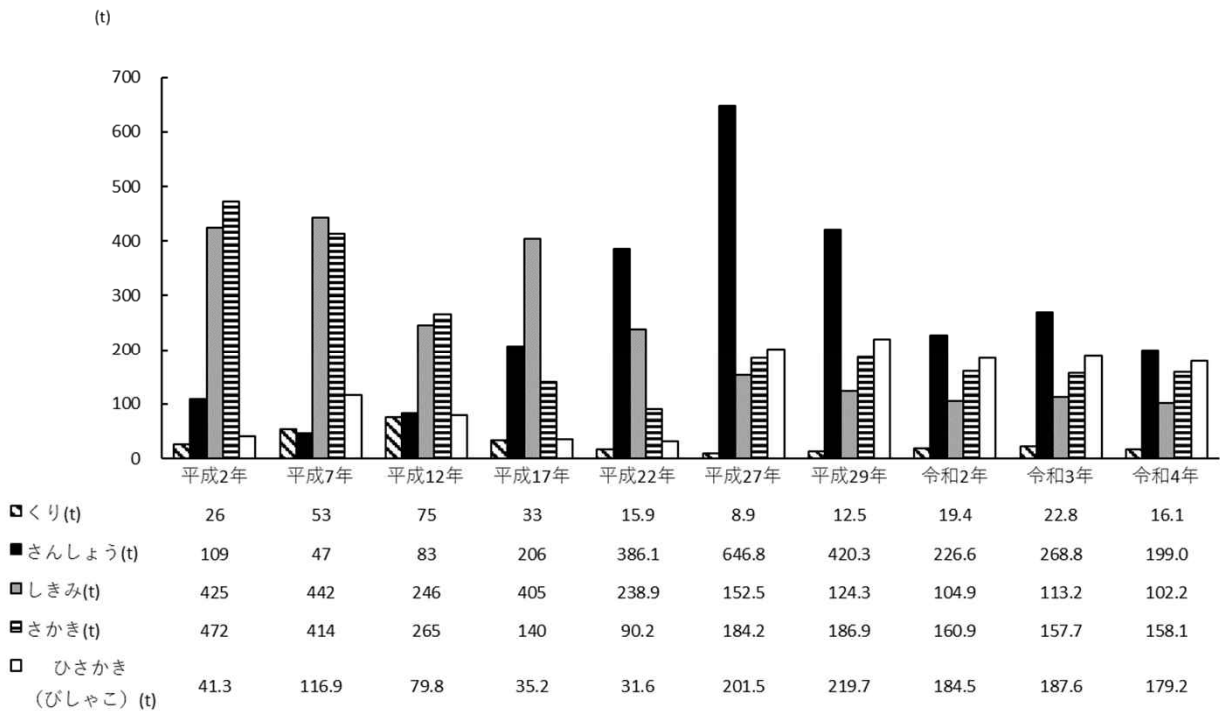
地域別・木炭生産量 (令和4年)



(県林業振興課業務資料)

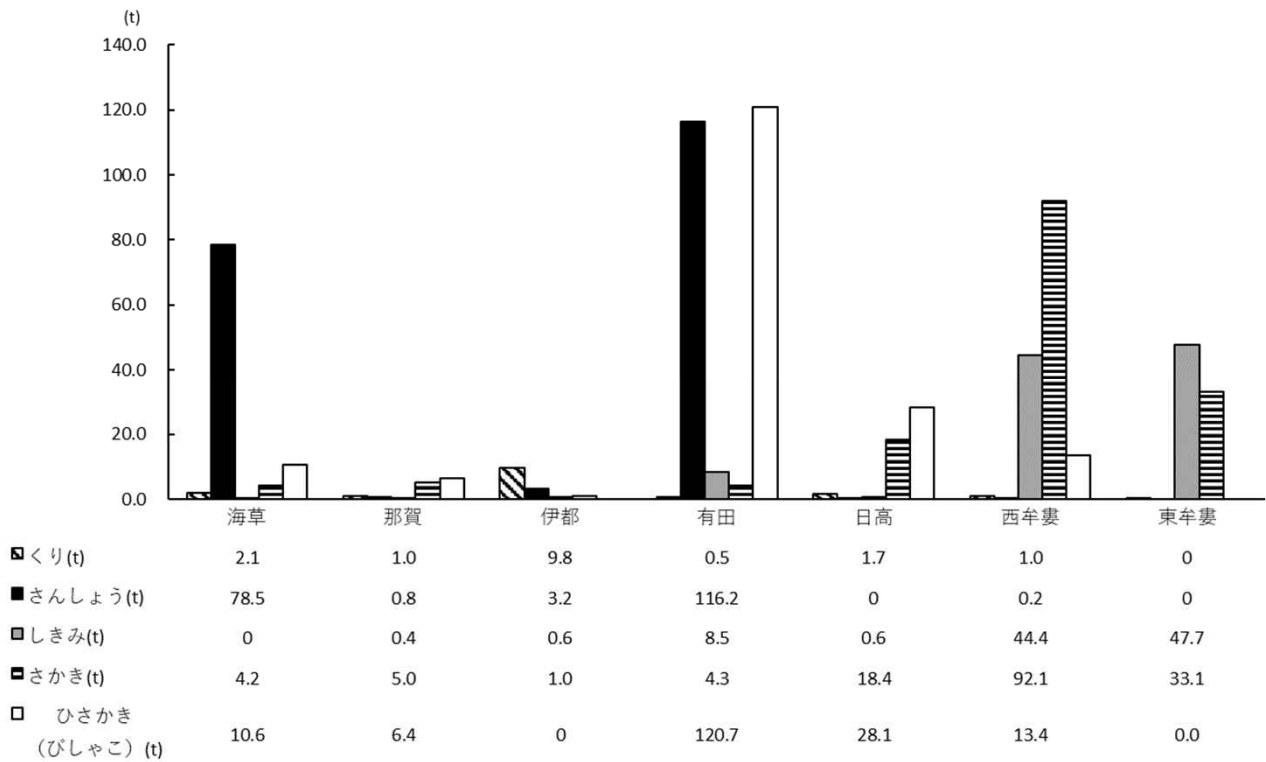
木材による収入が減少する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

その他の特用林産物生産量の推移



(ひさかき以外の平成2年～平成17年は四捨五入で整数にしている。)

地域別・その他の特用林産物生産量（令和4年）

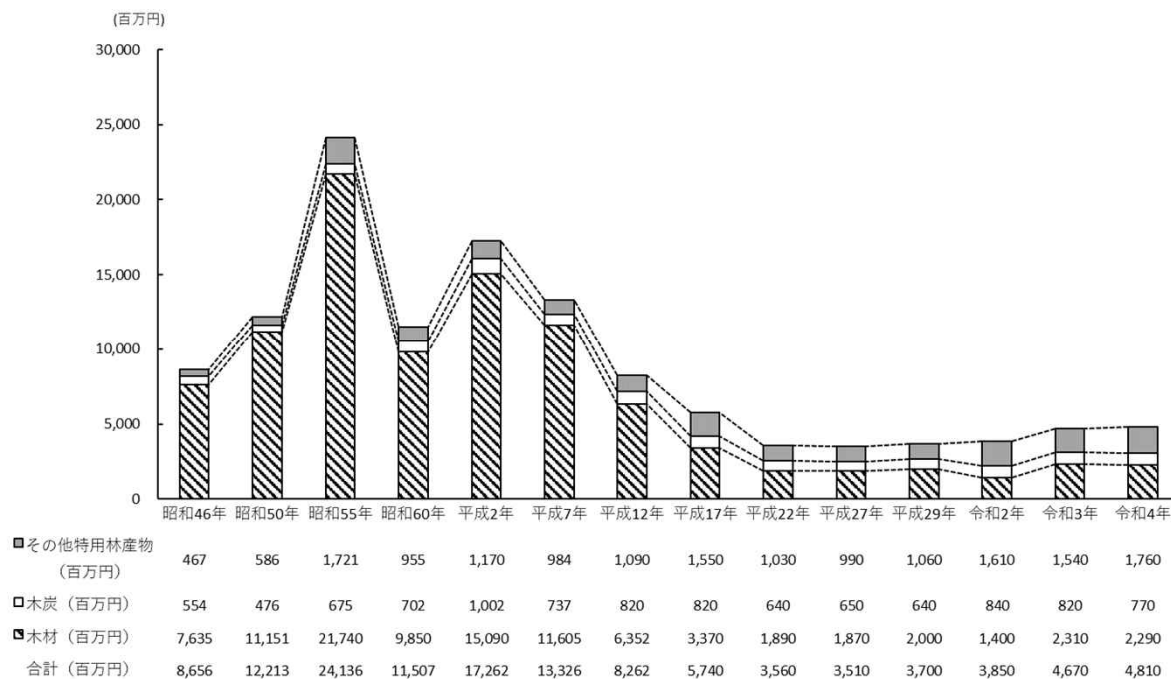


(県林業振興課業務資料)

4) 林業産出額

素材価格がピークであった昭和55年から減少後、平成27年以降からは増加傾向にある。令和4年は昨年と比較して、1.5億円増加している。

林業産出額の推移



(林業産出額)

林業産出額

令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	産出額 (千万円)	産出額 (千万円)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
総計	50,998	481	30	0.9	長野	北海道	新潟
木材生産	29,282	229	28	0.8	北海道	宮崎	岩手
特用林産物	21,715	253	23	1.2	長野	新潟	福岡

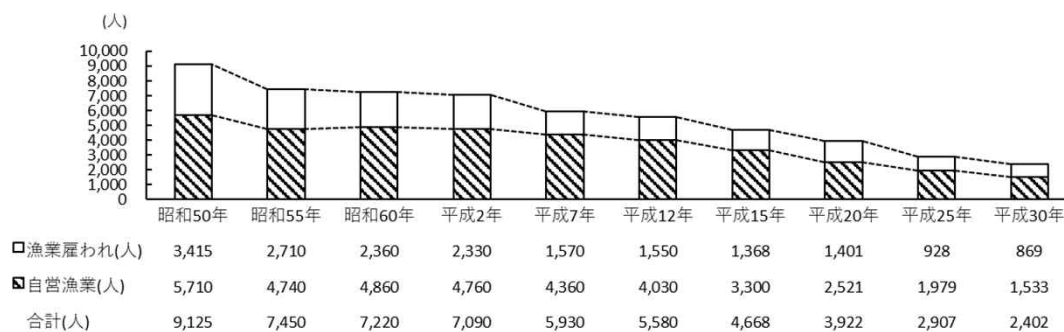
(林業産出額)

3 水産部門

1) 水産業を担う人々

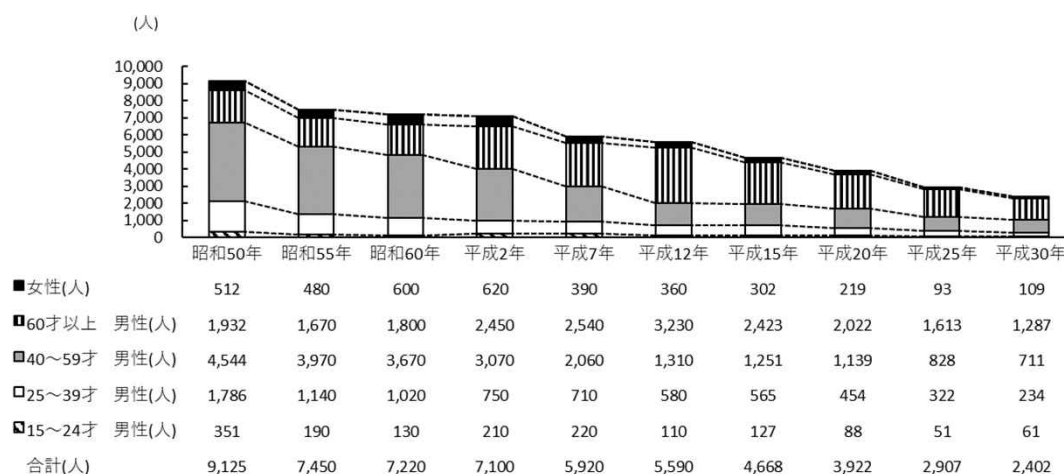
漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成30年は2,402人である。
 また、漁業就業者数のうち年齢別では60才以上の男子就業者が53.6%を占め、高齢化が進んでいる。

漁業就業者数の推移



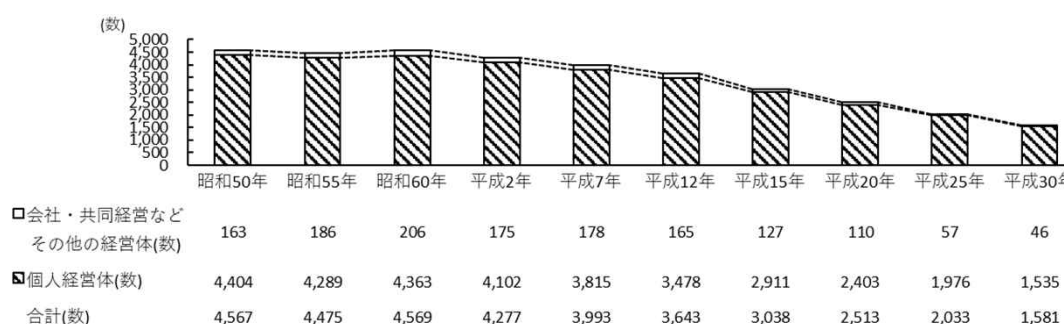
年齢区分別漁業就業者数の推移

(農林水産統計年報・漁業センサス)



漁業経営体数の推移

(農林水産統計年報・漁業センサス)



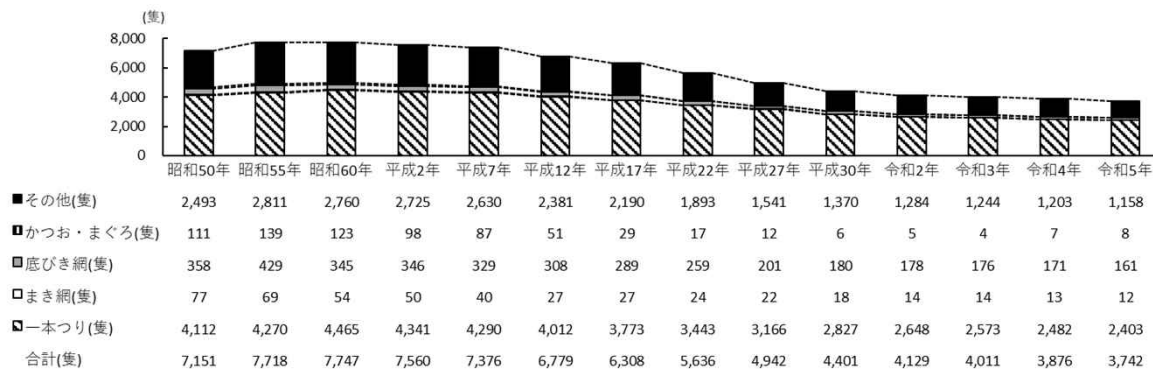
漁業経営体数など

平成30年	全国	和歌山		全国順位			
		順位	シェア(%)	1位	2位	3位	
漁業経営体数(数)	79,067	1,581	21	2.0	北海道	長崎	青森
漁業就業者数(人)	151,701	2,402	23	1.6	北海道	長崎	青森

2) 水産業の基盤

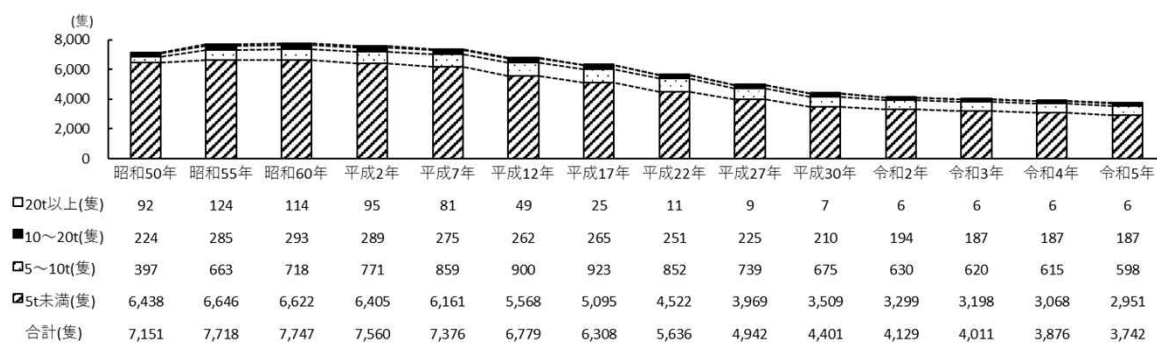
海水動力漁船数昭和60年をピークに減少傾向にあり、令和5年12月末日現在では3,742隻となっている。漁業種別では「一本つり」は64.2%、「底びき網」は4.3%である。トン数別では5t未満の小型漁船が、78.9%と大半を占めている。

漁業種別海水動力漁船数の推移



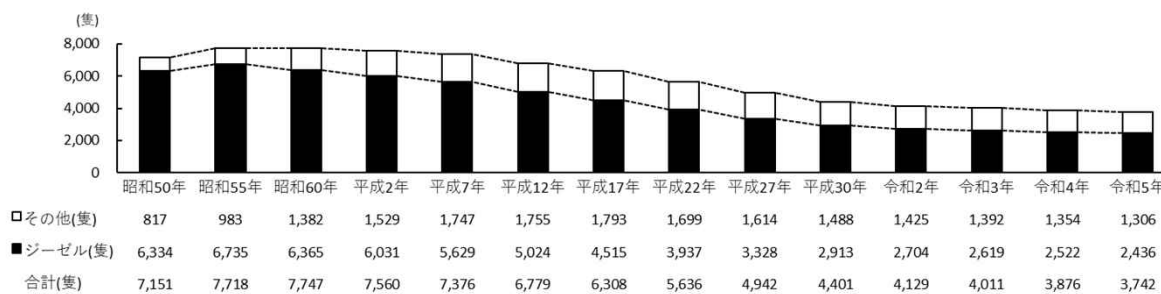
トン数階層別海水動力漁船数の推移

(県漁船統計表)



機関種別海水動力漁船数の推移

(県漁船統計表)



(県漁船統計表)

漁港の現況

本県には、94港(全国2,777港)の漁港(令和5年4月1日現在)と、119地区(全国4,402地区)の漁港背後集落(令和3年度末時点)がある。

また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のとおり分類されている。

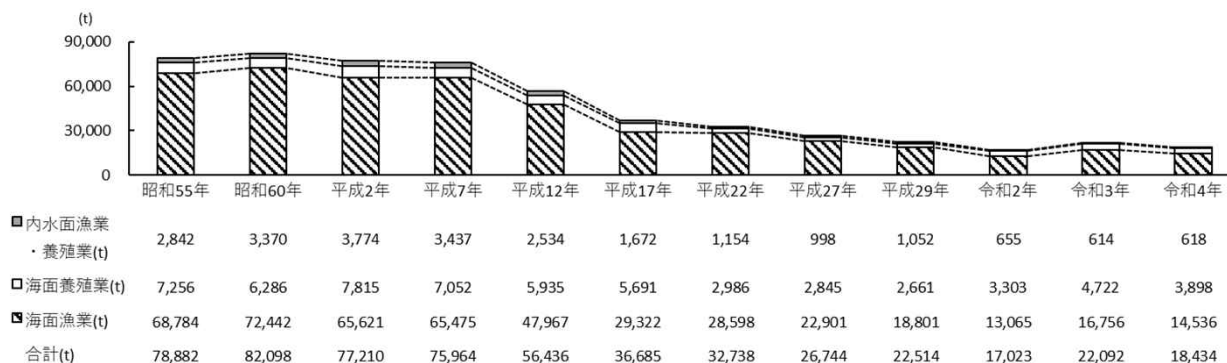
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の水産物を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
合計	94	

3) 水産業の生産

海面漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、令和4年は18,434tとなっている。

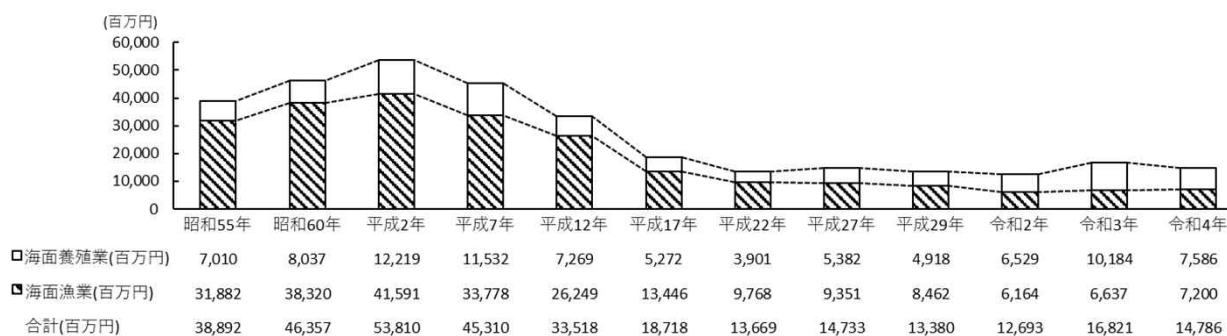
海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、令和4年は147億86百万円となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



漁業・養殖業産出額の推移

(漁業・養殖業生産統計)



※海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の産出額は計上されないこととなり、平成19年以降の数値は種苗の産出額が含まれないものに修正されたため、平成18年以前と平成19年以降は連続しない。

(漁業・養殖業生産統計)

令和4年度水産業の生産量・産出額

令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	生産量(t)	生産量(t)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
海面漁業	2,950,992	14,536	29	0.49	北海道	茨城	長崎
魚類	2,374,931	13,820	29	0.58	北海道	茨城	静岡
えび・かに・いか・たこ	114,263	358	33	0.31	北海道	青森	兵庫
貝類	373,227	44	38	0.01	北海道	愛知	千葉
海藻類	56,684	208	17	0.36	北海道	愛知	青森
海面養殖業	911,839	3,898	23	0.43	北海道	広島	宮城

令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	産出額(百万円)	産出額(百万円)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
海面漁業	913,592	7,200	28	0.79	北海道	長崎	宮城
海面養殖業	521,098	7,586	18	1.46	愛媛	鹿児島	長崎

4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移

令和4年の魚種別漁獲量は、海面漁業では、さば類25.9%、いわし類13.8%、あじ類13.5%、かつお類7.1%となっている。海面養殖業では、まだいが60.3%、くろまぐろが33.9%を占め、内水面養殖業では、あゆが97.2%となっている。

海面漁業、養殖業魚種別生産量（令和4年）

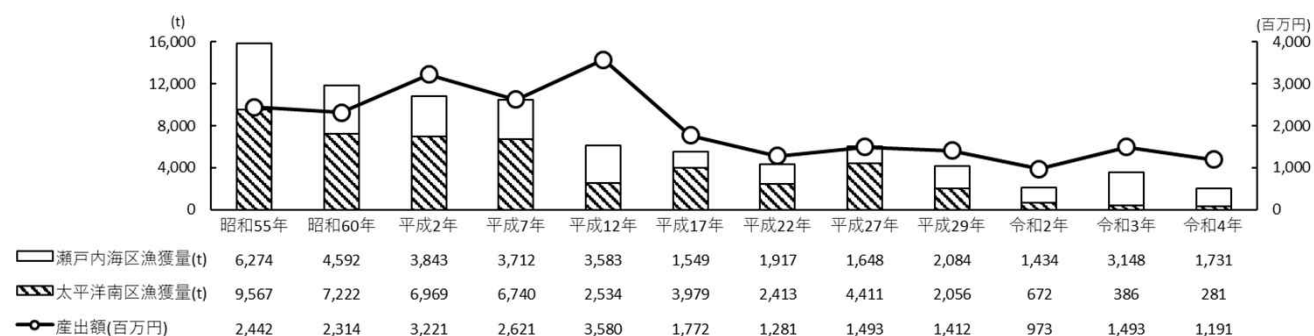
令和4年度	和歌山県海面漁業生産量												
	合計	小計	海面漁業							海面養殖業			
			いわし類	さば類	あじ類	かつお類	まぐろ類	たちうお	その他	小計	まだい	くろまぐろ	その他
生産量(t)	18,434	14,536	2,012	3,762	1,957	1,031	851	459	4,464	3,898	2,349	1,320	229
比率(%)	100	78.9	10.9	20.4	10.6	5.6	4.6	2.5	24.2	21.1	12.7	7.2	1.2

内水面漁業、養殖業魚種別生産量（令和4年）

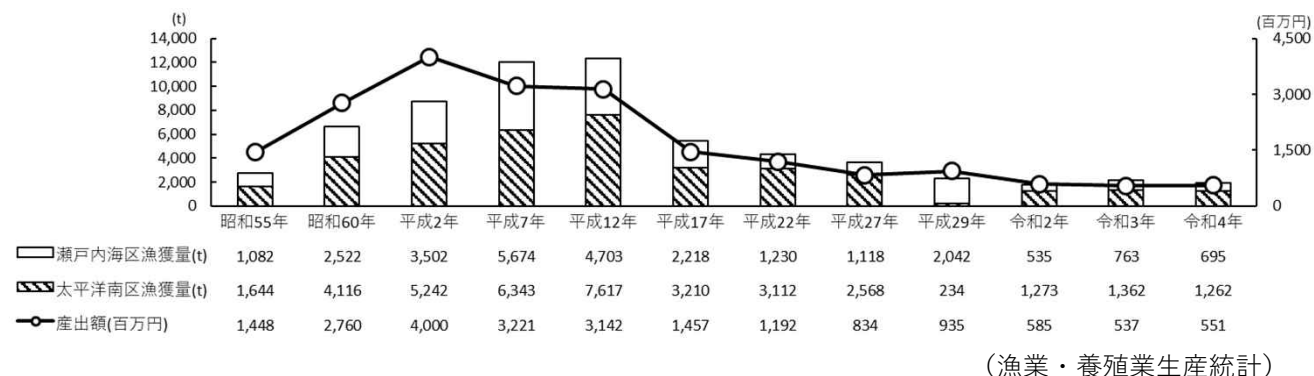
令和4年度	和歌山県内水面漁業生産量						
	合計	小計	内水面養殖業		内水面漁業		
			あゆ	その他	あゆ	その他	
生産量(t)	618	608	591	17	10	8	2
比率(%)	100	98.4	95.6	2.8	1.6	1.3	0.3

(漁業・養殖業生産統計)

いわし類

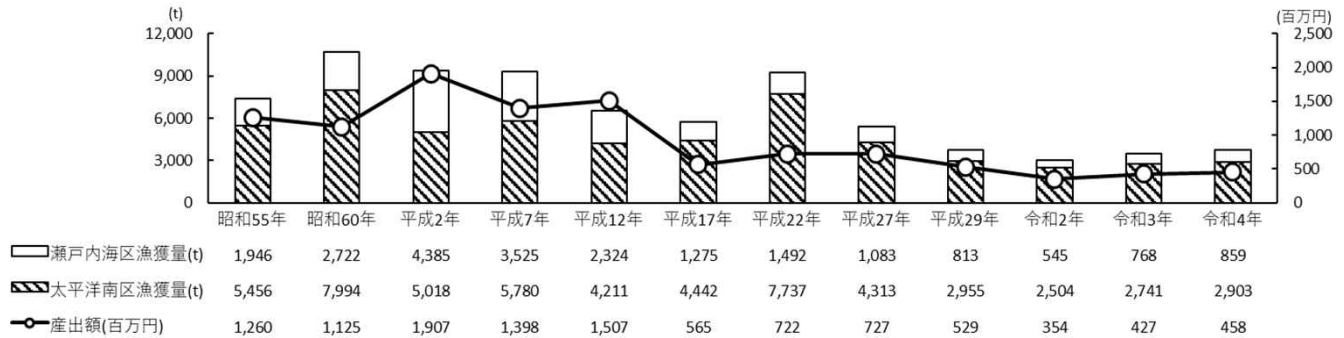


あじ類

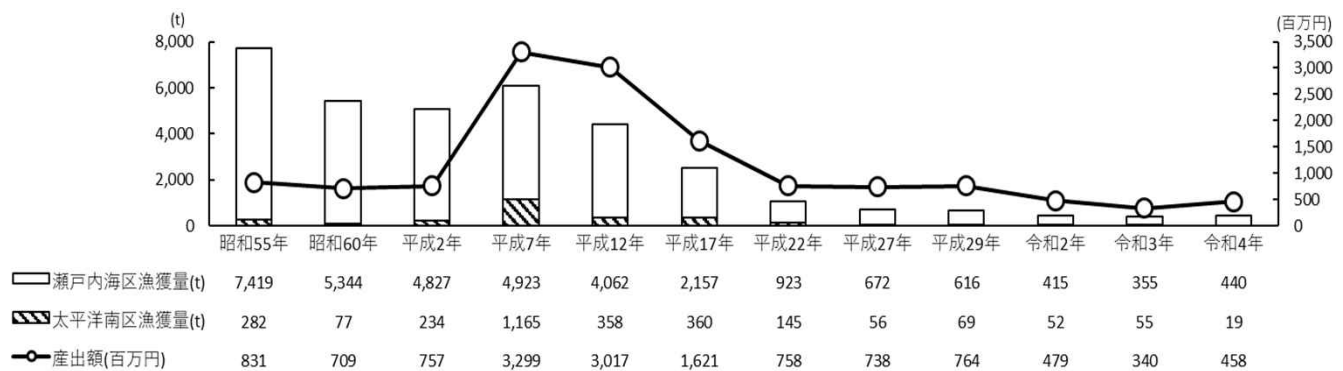


(漁業・養殖業生産統計)

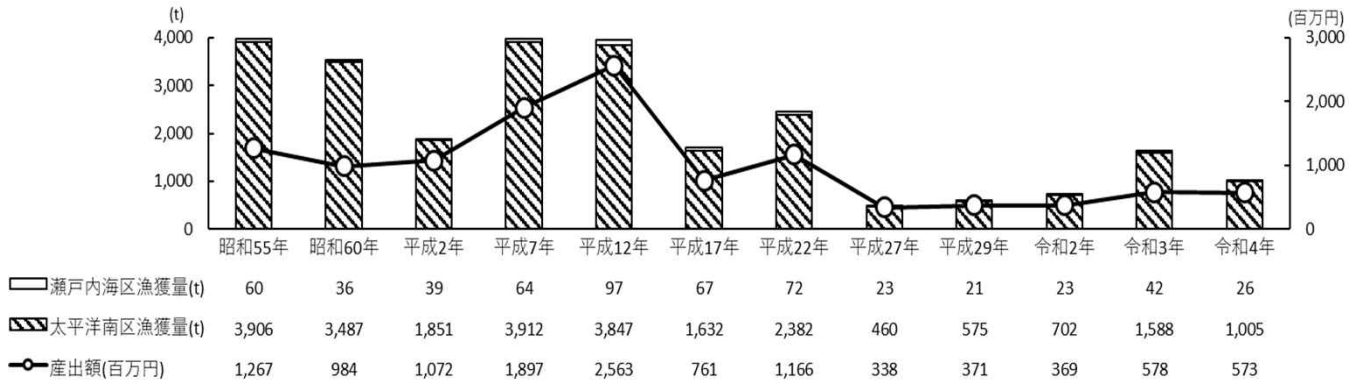
さば類



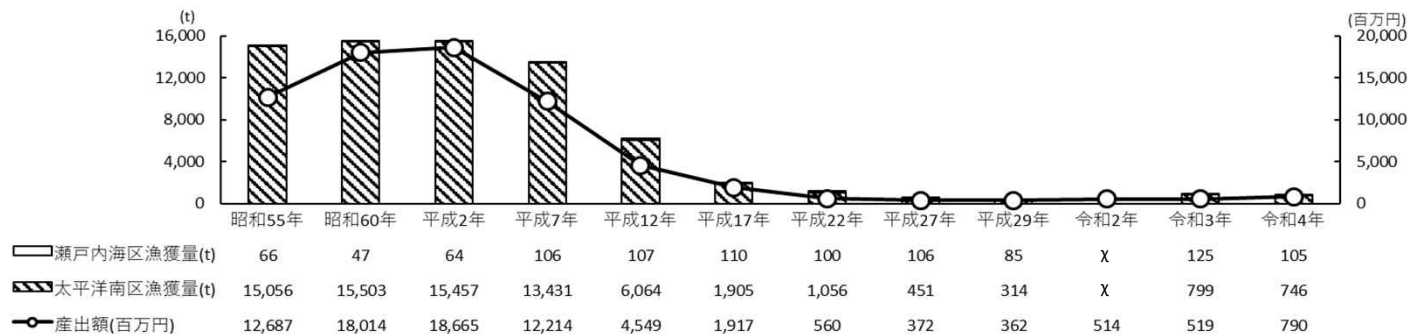
たちうお



かつお類



まぐろ類



※「X」は統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(漁業・養殖業生産統計)